

構造設計特記仕様書

適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称
堤防築削所

(2) 工事種別 ☐新築 ☐増築 ☐増設築 ☒改築

(3) 構造種別
☐土造 (W) ☐補強コンクリートブロック造 (CB) ☒鉄筋造 (S)
☒鉄筋コンクリート造 (RC) ☐形式鉄筋コンクリート造 (WRPC)
☐鉄筋鉄骨コンクリート造 (SRC) ☐形式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐

(4) 階数
地下 1 階 地上 2 階 階数 階

(5) 主要用途
学校校舎

(6) 屋上付属物
☐広告塔 ☐直排水槽 ton ☐
☐煙突 ☐キャニピクル ton ☐

(7) 増設計画 ☐有 ☐無

(8) 付帯工事
☐あり ☐簡壁

(9) 特別な荷重
☐普通積載用 kg/m² ☐浸水層 ton ☐
☐吊钩積載用 kg/m² ☐浸水層 ton ☐ 0.3ton

(10) 構造計算ルート X方向ルート (1) Y方向ルート (1)

2. 使用構造材料

- | 適用箇所 | 強 度 | 設計基準強度 $f_c = N/mm^2$ | スラブ厚 cm | 備 考 |
|----------|---------|-----------------------|-----------|-----|
| 鉄コンクリート | □普通 | □13.5、□18 | 18 | |
| 土間コンクリート | □普通 | □18、□21 | 15 | |
| 基礎、基礎梁 | □普通 | □18、□21、□36 | 15 | |
| 梁、壁 | □普通 □ | □18、□21、□36 | 18 | |
| 床 | □普通 □軽量 | □10、□21、□36 | 15 | 比置 |
| 押入コンクリート | □普通 □軽量 | □13.5、□16、□18 | | 比置 |

- (2) コンクリートブロック (CB)
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚 ☐100, ☐120, ☐150, ☐190,

- | (3) 鉄筋 | 種類 | 径 | 使用箇所 | 施工方法 |
|--------|--|---------|--------------|---|
| 異形鉄筋 | ☒ SD295A | D10-D16 | スラブ板、柱、梁、筋かい | ☒ 巻掛手 |
| | ☒ SD295A | D19-D25 | 基礎梁、土留 | ☒ ガス圧掛手 |
| | ☐ SD345 | | | ☐ |
| | ☐ SD390 | D29- | | |
| 丸 鋼 | ☐ SR235 | | | ☐ 特製手 |
| 冷間金鋼 | ☐ | | | () |

- | (4) 砵骨 | | 番 號 | 使用箇所 | 現場溶接 | 設計溶接強度 |
|--------|---|-----|---|---|--------|
| 調 材 | ☐ SS400 ☐ S400A ☐ S400B ☐ | 溶接部 | ☐ 有 ☐ 無 | ☐ 0.5F ☐ 1.0F | |
| | ☐ SKR400 ☐ TKR490 ☐ TKR400 | 鋼柱 | ☐ 有 ☐ 無 | ☐ 0.5F ☐ 1.0F | |
| | ☐ SM490A ☐ SM490B ☐ | | ☐ 有 ☐ 無 | ☐ 0.5F ☐ 1.0F | |
| | ☐ SSC400 ☐ | | ☐ 有 ☐ 無 | ☐ 0.5F ☐ 1.0F | |
| 備 考 | | | | | |

- (5) ボルト
- | | (F10) | S8T | S10T | 認定品 (M12, M16, M20, M22) |
|---|----------|-------------|-------------|--------------------------|
| ☒ 高力ボルト | $\phi =$ | $\phi =$ | $\phi =$ | 高力ボルトすべり試験 要 否 |
| ☐ 中系ボルト | SS400 | $\phi = 12$ | $\phi = 16$ | ナット (シングル, ダブル) |
| ☒ アンカーボルト | | $\phi =$ | $\phi =$ | |
| ☐ 鋼材スタッド | | $\phi =$ | $\phi =$ | |

- (6) 屋根、床、壁
- 図A1C 厚 100
- 使用箇所
つどの広帯の屋根裏
- 型式
- H=
- 厚
厚
厚
- ☐ 断熱 型式
- ☐ デッキプレート 型式
- ☐ キーストンプレート 型式
- ☐
- ☐
- ☐

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
 図有 () 図無 ()
 図有 () 図無 ()
 図有 () 図無 ()
- (2) 地盤調査計画
 図有 () 図無 ()
 図有 () 図無 ()
 図有 () 図無 ()
- (3) 地盤調査方法及試験結果の記入。杭長、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ホーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

別紙資料による

- ## 5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
- コンクリートはJIS認定工場製の製品と施工に用いては、JASSYによる。
 - セメントは、JIS R5210(普通ポルチランドセメント)を標準とする。
 - 測定計は、工事開始前に工事管理者の承認を得るものとする。
 - 雪中、雪中、その特殊コンクリートの適用を要する期間に当たる場合は、調査、打込み、養生、管理方法など要項等について、工事管理者の承認を得るものとする。
 - フレッシュコンクリートの塩化率測定は、原則として工事現場で(財)国関技術表示センターの試験所等につけて塩化率測定を用いて行い、試験結果の記録及び試験結果の表示等の一環として適当な方法で写真(カラー)を撮影し記録を得る。
 - 測定結果の数値は、通常の場合、1日1回以上とし、1日の検査に当たっては測定結果は、同一位置から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
 - 構造体からコンクリート現場の圧強度を確保供体供体(JASST-603)は、現場中か養生、または打ち込み養生とし、検査は打ち込み区と区、打ち込み区と区、
 - また、打ち込み養生150cmを要する場合は150cmとし、その数値ごとに一回を標準とする。一回に使用する供体は、通常4箇所当たり3回の標準値よりその必要数値を標準とする。必要供体の数値は、特別指示がない場合は、1日1回6人以上とし、そのうち4回以上3本を用いる。
 - ポンチ打ちコンクリートは、打ち込み位置に達するだけ近づいて垂直に打ちコンクリートの自由落下後は、コンクリートが分離しない程度とする。ポンチ打ちに際しては、コンクリート圧入技術または同等以上の技術を有する者が専任すること。また、打ち込み試験中に打ち込み履歴や時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分とする。

- ## (2) 鉄筋

- 試験はJIS G3112-2の規格品を標準とする。
 - 鉄筋の加工方法、形状、及び剪り長さ、鉄筋の最大低地、鉄筋手の重り長さ、定着長さとは「鉄筋コンクリート構造配筋標準書(1)」「(2)」または「型式鉄筋コンクリート構造配筋標準書(1)」「(2)」による。
 - D19未満は、すべて重ね継ぎ手とする。鉄筋手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会の鉄筋のガス圧接工事標準仕様書による。
 - ガス圧接の接き部手数は、同一作業場毎一日に施した圧接箇所と(200箇所を超えとなすは、200箇所)に1行ない、1回の試験は5本以上とする。
 - 外観検査 有 無、引張試験 有 無、引張強度55N/mm²試験 有 無
 - 柱の市節(HDDP)の加工方法は、H型(ワ型) W型(溶接型) S型(Sパイラ型)とする。
 - コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都建設条例」第4条の試験機関で行うこと。
- 試験機関名
代行業者名
- 代行業者とは、試験、検査に際す業務を代行する者をいう。

- ### (3) 型 棒

- ☐ 材料 合板厚 12mmを標準とする。
☐ 型枠在置期間

4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ☒ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 ☐ 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無
深さGLー 0.3 m、支持層盛土、シルト 長期許容支持力度 5 t/m² ☐ 載荷試験 ☐ 有 ☐ 無

- (2) 抗基礎 支持層—GL-6.5~7.5m

装置	材料	施工法	備考
□RC □PC 鋼筋コンクリート 鋼管 □鋼壁板	PC □RC □FRP □FRP PHC (FRP) □FRP (FRP) □SS400 □SS400	□打ち込み 鋼管組込み (セメントミルク工法) 鋼管埋入式 (有孔管埋入工法)	PHC管採用 日本ユニーエム (03-5352-4166)
□鋼筋打ち コンクリート板	コンクリート $F_c =$ STK400 セメント量 kg/m ³ 鉄筋量 kg/m ³ HOB SD	□オールドラング □直置き □リフト・スカーレーション □アースリフト □リフト・スカーレーション □H1 □鋼管 □手掘	鋼管埋入・鋼管杭 鋼管の例 EAZET (株)東芝 (03-5298-5133) SPM (LIFE) 株式会社 (03-3571-3530)

杭仕様
試験杭

☐設計計画書承認
(☐有・ ☐無)

☒杭施工結果報告書
(☒打ち込み・ ☐観荷)

3 本

[illegible]

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による。
- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技師指針」
- 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
-

- (2) 工事管理者の承認を必要とするもの。
- | | | | |
|---|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| ☐ 製作写真 | ☐ 製作準備書 | ☐ 工作図 | ☐ 施工計画書 |
| ☒ 建設告示第1103号による認定工場（大径認定） | グレードまたは積登録 ランプ | | |
| ☐ 材料規格証明書または試験成績書 | | | |
| ☐ 鋼材 | ☐ 高力ボルト | ☐ 特製ボルト | ☐ スタッドボルト |
| ☐ 社内検査表 | | | |

- (3) 工事管理者が行う検査項目
(☐ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
- | | | |
|--|----------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 現寸検査 | ☐ 組立・開先検査 | ☐ 製品検査 |
| ☒ 鍵万検査 | ☐ | ☐ |

- (4) 接合部の溶接は下記によること
- 東京都アーク溶接工事監理規程（建築構造設計指針第12章）
 - 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取組要綱（建築構造設計指針第12章）
 - 日本建築学会「溶接工作規準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

- (5) 接合部の検査
溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社 内	第三者	工事監理者	
○) 実地入り検査	超音波探傷試験	個	個	個	
□	外観（目視）検査	%	%	%	
□	マクロ試験	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、塗装主、工事監理者又は工事施工者が、受け入れ検査を代行するものとし自ら契約した検査会社をいいます。					

注) 現職若退職については原則として第三者による全数検査を行うこと。

- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒革などを座金・外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER 掛け等を用いて除去した後、屋外に直接放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。
締め付け後の検査は、各締付け工法別に適当な締付けが行われているか検査する。

- ### (6) 防銹塗裝

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準する。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

- ### (7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚きの1/3以下とし貫通の間隔を5cmとする。

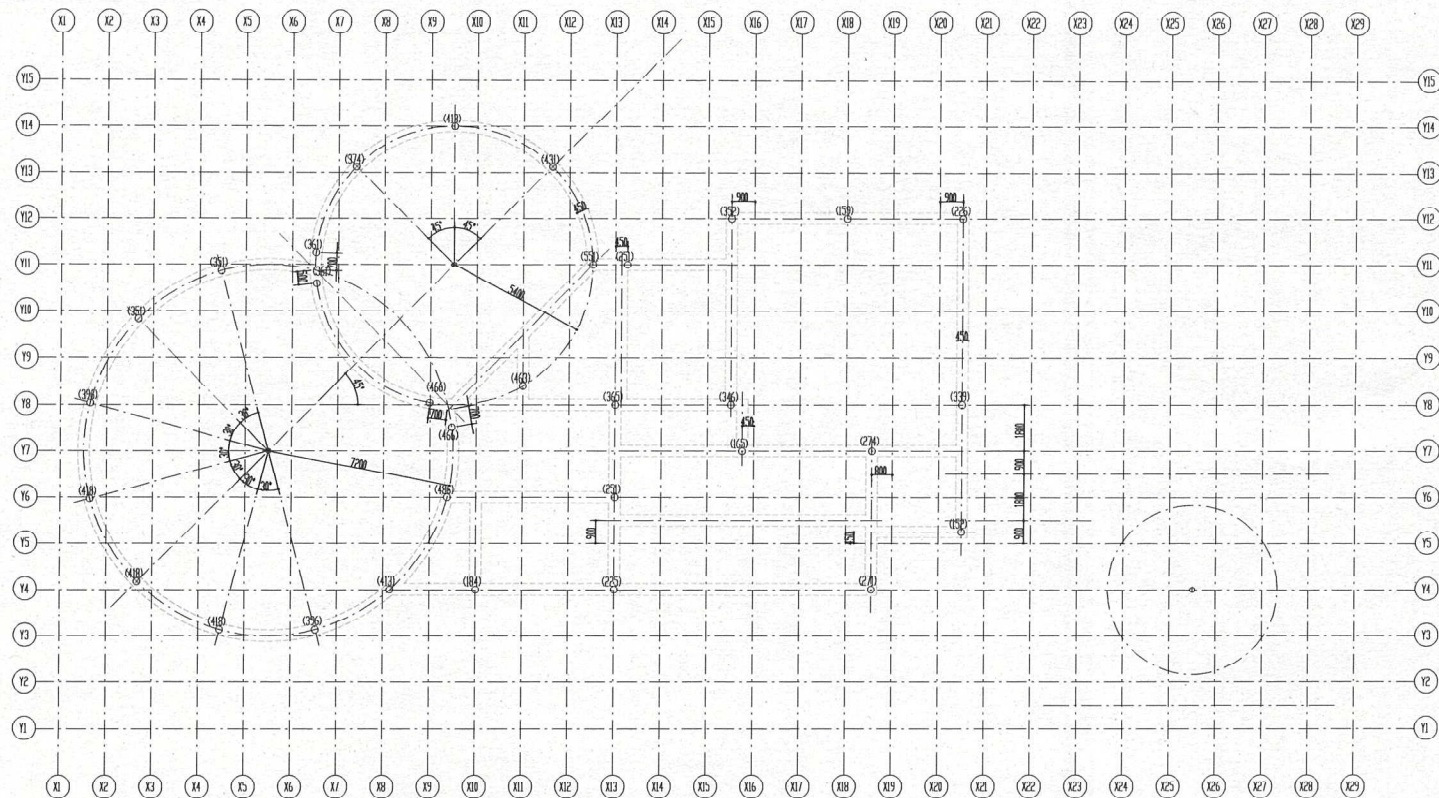
8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公約試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
- 特記以外については、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」に従うこと。

○ 既設貫入羽根付鋼管杭 $\phi 267.4\text{mm}$
 杭長 7500mm 杭天端=GL-890mm
 杭頭処理：右側のピン接合とする
 括弧内数字は、設計荷重（単位はkN）
 設計荷重に応じて先鋭翼径Dwを選択する
 隣り合う杭同士のお互に距離は、2Dw以上

地中梁位置

Technical drawing of a foundation cross-section. It shows a concrete pile with a cap. The cap is labeled "キャップ V1E1-1030". The pile is labeled "基礎梁". The reinforcement bars are labeled "補強筋 縦・横D13×3本".



凡例

FG1: 地中梁 450×750
主筋 上下とも 3-D19
あばら筋 D10@150
腰筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG2: 地中梁 450×750
主筋 上下とも 2-D25
あばら筋 D10@150
腰筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG4:地中梁 450X750
 主筋 上下とも 4-D25
 あばり筋 D10@150
 腹筋 2-D10、一段
 端止筋 D10@1000

FG5: 地中梁 450x750
主筋 上下とも 5-D25
おびら筋 D10@150
腰筋 2-D10, 一段
幅止筋 D10@1000

FG12:地中梁 450×1150
主筋 上下とも 3-D19
あばら筋 D10@150
腹筋 4-D10, 2枚
端上筋 D10@1000

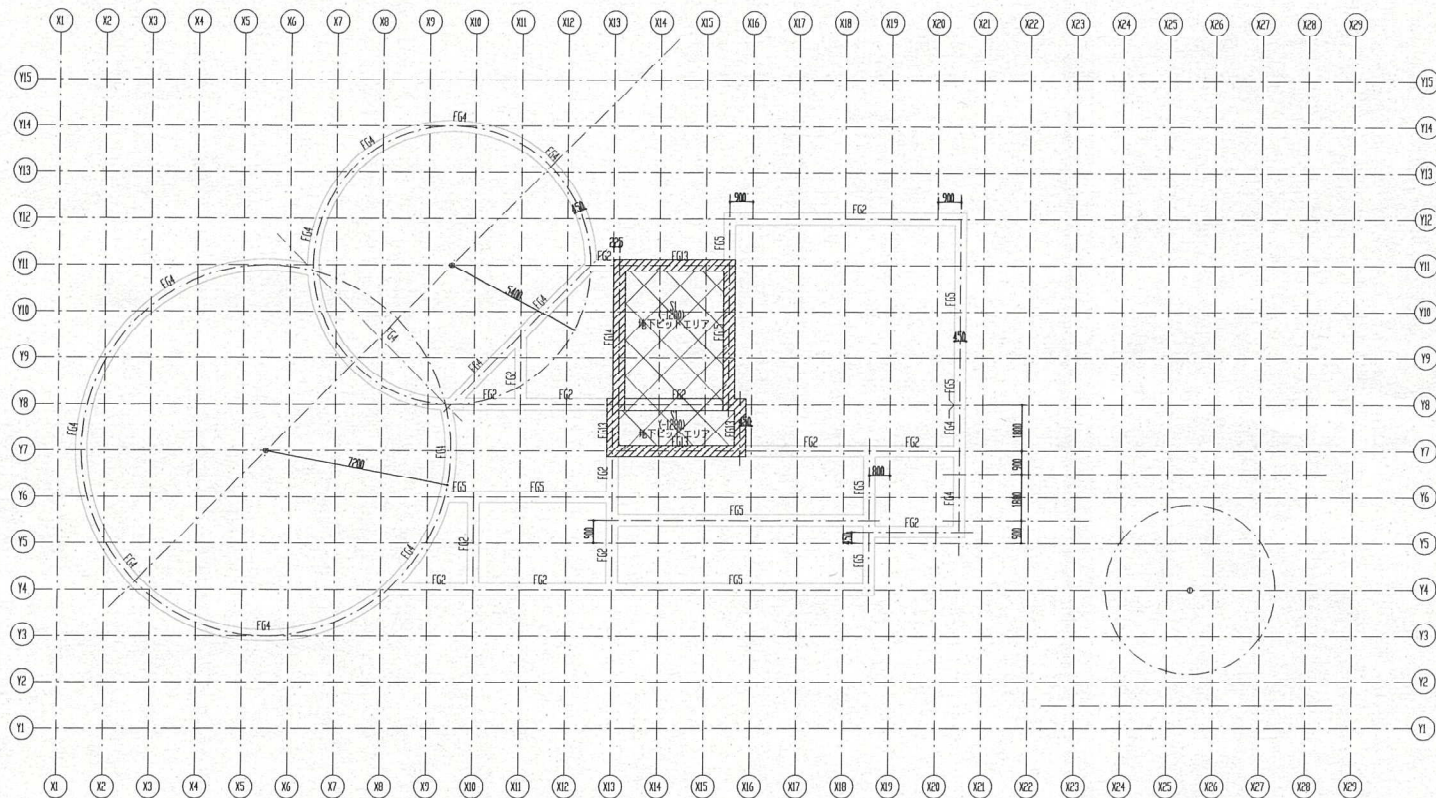
FG13: 地中梁 450×1150
主筋 上下とも 2-D25
あびら筋 D10@150
腰筋 4-D10, 2段
幅止筋 D10@1000

FG14:地中梁 450×1150
主筋 上トとも 4-D25
あばう筋 D10@150
腹筋 4 D10, 2段
幅止筋 D10@1000

FG15:地中梁 450×1150
主筋 上下とも 5-D25
おびら筋 D10@150
腹筋 4-D10, 2段
端止筋 D10@1000

S1:基礎スラブ 厚さ 150
縦 D13@200
横 D13@200
シングル配筋
括弧内は、1FL に対する天端高

※X20+900通りの基礎梁は、
Y8(杭位置)を境界として
Y5+450~Y8までは FG4
Y8~Y12までは FG5



凡例

FG6: 集いの広場円周部分基礎梁
350X670
主筋 上下とも 2-D13
おぼろ筋 D10@200
腹筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG7: 外周部基礎梁
200×370
上主筋 1-D13
下主筋 2-D13
めげり筋 D10@200

FG8:内部基礎梁
200X370
主筋 上下とも 2-D13
おぼろ筋 D10@200

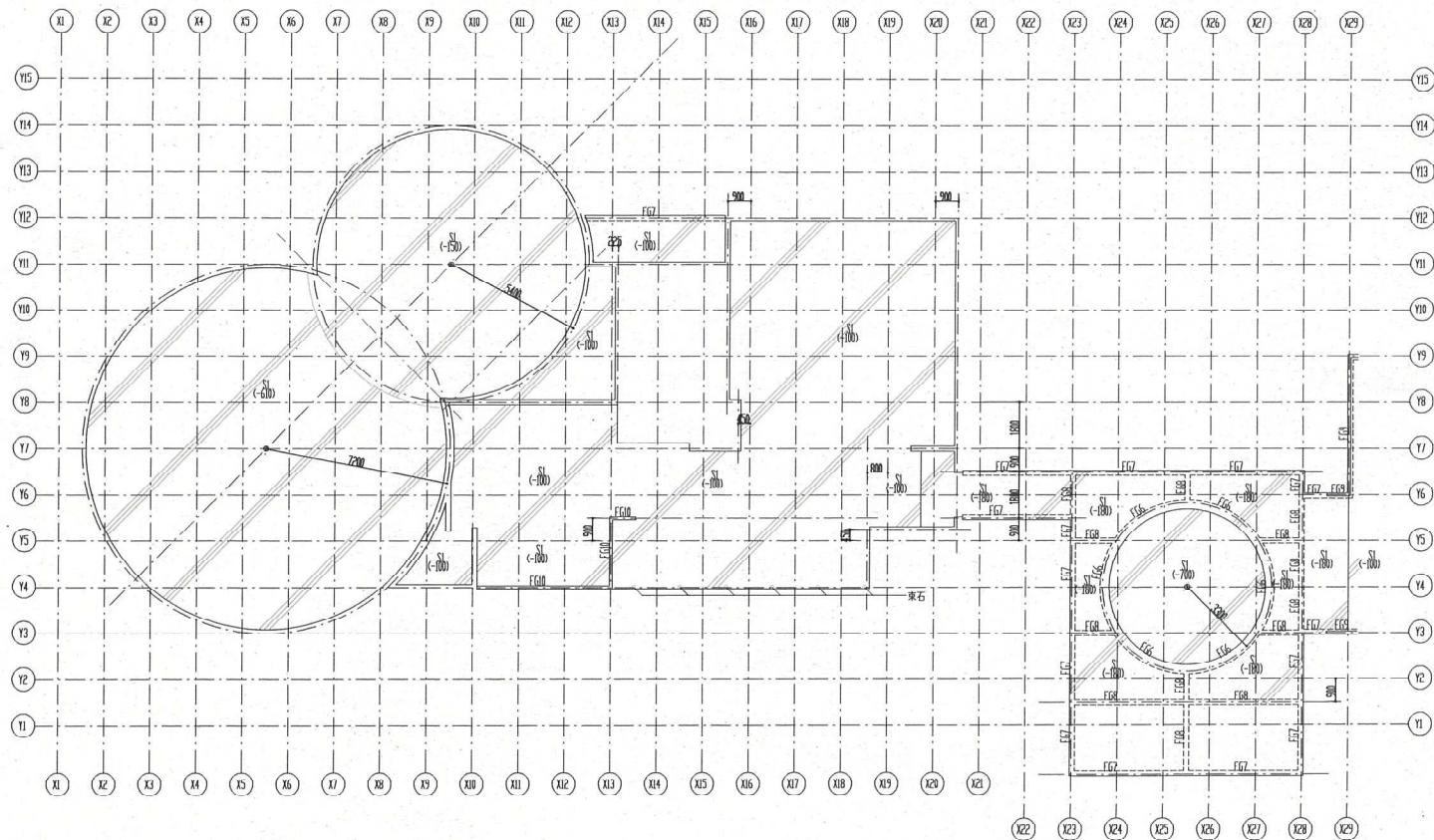
FG9: 外周基礎梁(FG7)+立ち上がり
底面幅 200
上主筋 1-D13
下主筋 2-D13
めばり筋 D10@200
立ち上がり幅120 天端高=FL+140

FG10: (立ち上げのみ)
幅120 天端高=FL+140
主筋 上下とも 1-D13
あばう筋 D10@200
地中梁 (FG1-FGS) 上部にならしモルタル30の上、
立ち上げを設ける

S1:基礎スラブ 厚さ 150
縦 D13@200
横 D13@200
シングル配筋
括弧内は、IFLに対する天端高

※地トビット上部は、木造床
材等美等複合材E120-F330
120×210@900

※Y3、及び、Y6通りのFG7は、
Y28+800（鉄骨柱位置）を境界として
殺室棟側のFG9に接続する



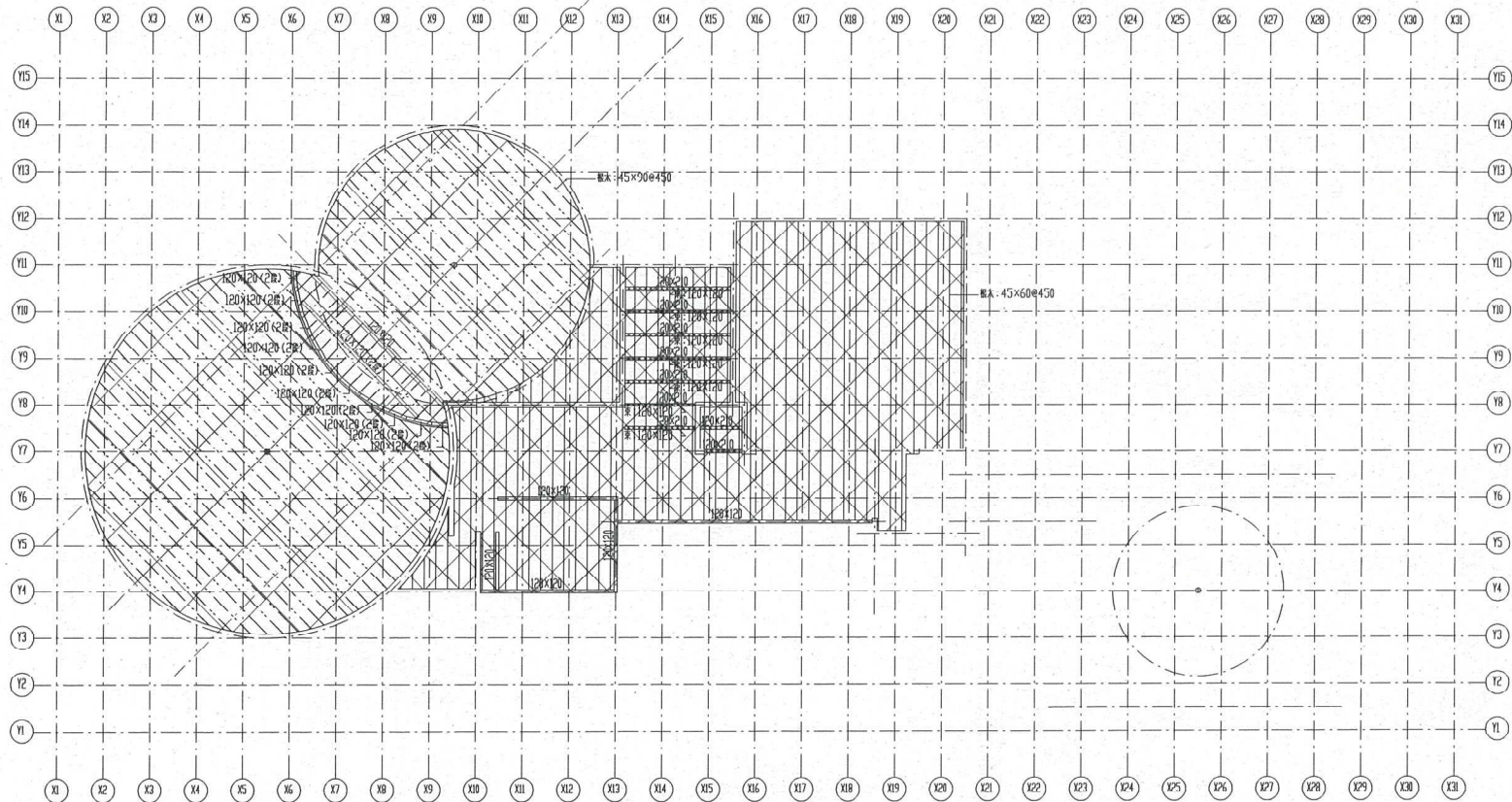
凡例
 120×120 十六:120×120
 対称等価敷材E120-F330
 120×120 (2段) 土台 (多目的教室舞台): 120×120 上下2段
 対称等価敷材E120-F330
 多目的教室マフ上に下段土台を設け、
 床立て (床: 120×120@1000) の上
 上段土台を音楽室板木大隅と揃えて設ける。
 90×90 縁側大引: 90×90
 対称等価敷材E120-F330
 120×210 床下ビット床梁: 120×210@900
 対称等価敷材E120-F330
 スパン中央下部に床立て (120×120) 有り
 45×60 板木: 45×60@450
 板木 (音楽室・多目的教室): 45×90@450



構造用合板 厚12 (音楽室・多目的教室)



構造用合板 厚15



円高上部 裕子梁受 かりよう
RC断面リスト ? を参照

多目的教室・音楽室 横
RC断面リスト ? を参照

S2: 屋根スラブ 厚さ 150
(WC1・身障者WC3上部)
径 D13@150
径 D13@150
シングル配筋

WG1: 壁梁 (Y7通り) 図工室・ギラリー境
幅200 x 高1100
上下主筋 2-D22
腹筋 4-D10 2段
SIP U10@200
※この壁梁の上に、木の桁3段配置

凡例(本部分)

—・— 等り梁 針鉄業等機械産品E120-F330
120x300@900

—— 桁 对称翼等规格集成材E120-F330
Y12通り桁 120×240 天端=軒高(=FL+2400)

Y8通り トップライト柵 上下2段
上段:120x120 天端=軒高+1069
下段:120x120

Y7通り トップライト柵 上下3段
上段:120×120 天端=軒高+3600
中段:120×120 天端=軒高+1363
下段:120×120 天端=軒高+970

Y6通り 120x240 天端=軒高+700

Y5+900通り 120x240 天端=軒高+574.6

Y4通り 120x270 天端=軒高+160

* 下階柱 同一等規格集成材E120-F3750 120×120

凡例（集いの広場・渡り廊下部分）

準いの広端上部屋根：ALC板 幅600×厚さ100

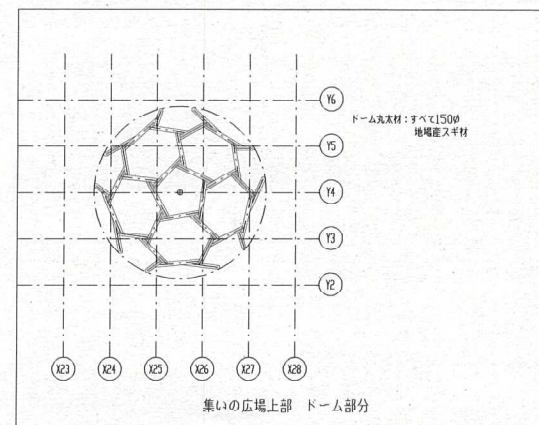
B1 B1:H型钢 200x100x5.5x8

B2 B2: H型钢 250×250×9×14
(架の広場底部 9mスパン)
(梁天端は、D1の下端)

CT:CT75x75x5x7

无腹梁	上杆件	120×180	对称类等轴桁架底材E120-F330
	下杆件	120×300	对称类等轴桁架底材E120-F330

受材 40×90 を CN90@100 で千鳥に打ち付け
受材に対して 両面ともに 構造用合板 厚9mm をCN50@100 で打ち付け

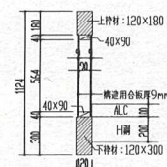


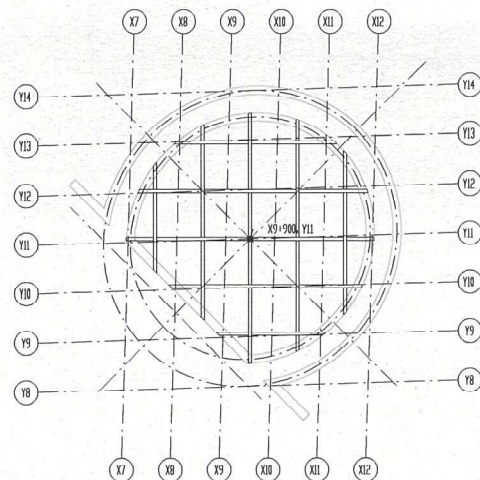
ドーム丸太材：すべて150φ
地産産材

—Y7通り工室・ギャラリー棟：
WG1 (RC壁梁) 200×1100
上下主筋 2-D22
腰筋 4-D10 2枚
STP D10@200
※この壁梁の上に、木の桁3枚配置

上部ドーム部分は
右上図を参照

充腰梁断面(1/20)

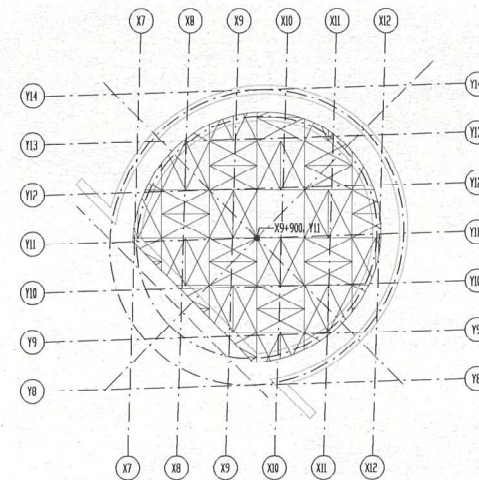




凡例

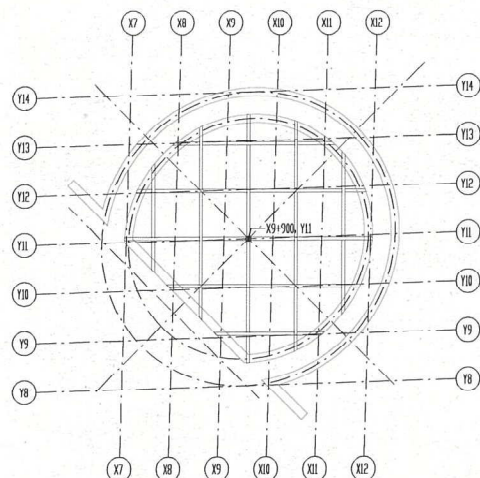
— 格子梁 ウェブ材 120×360
封鎖翼等鋼構成部材E120-F330

ウェブ材同士の仕口は、
クレテック金物 GK-30 接合



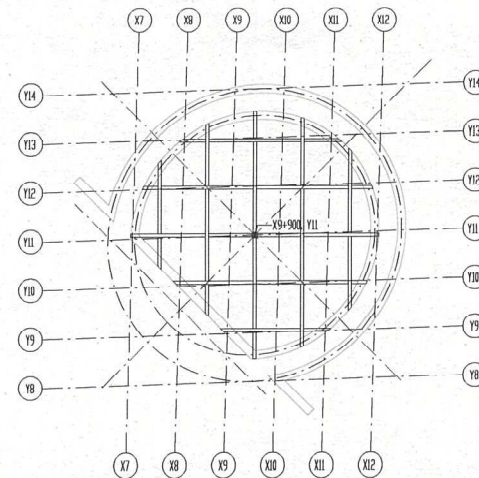
凡例

構造用合板：厚24mm×2重張り
2重張り、
下合板と上合板で
向きを直交にする
上フランジ材には、
CN902150留め



凡例

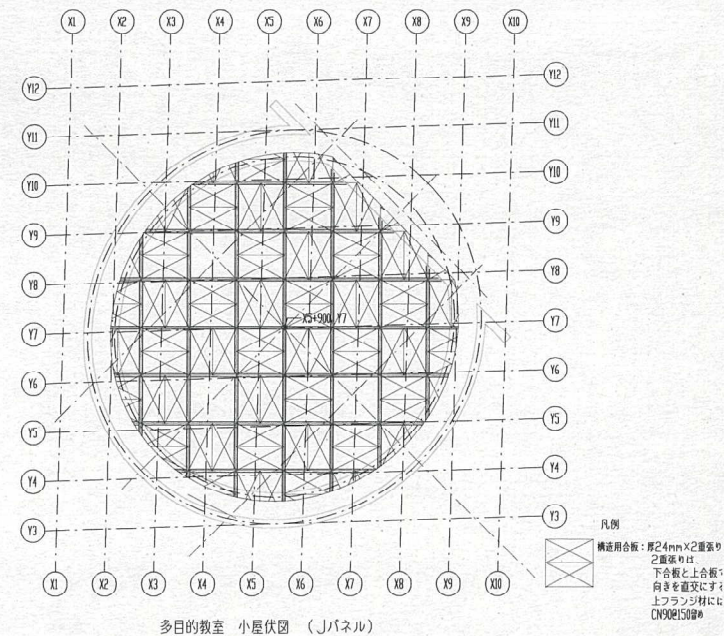
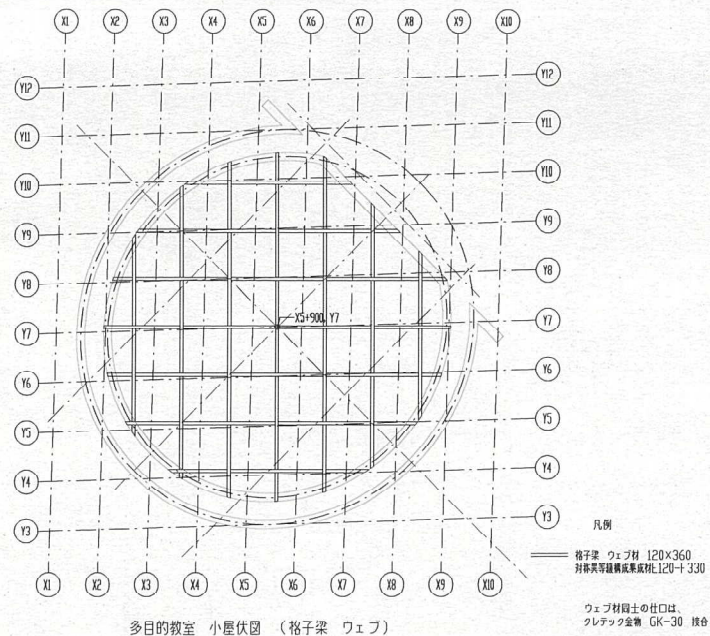
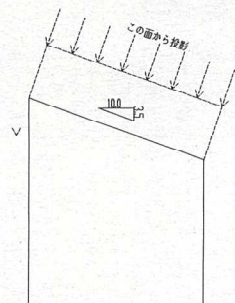
二 格付梁 下フランジ材 120×120
対称異種鋼構成材E120-F330
ウェブ材には、ラグスクリュー
M12 1=180 @XXXで留め付け
フランジ材同士の仕口は、
クレテック全物 GK-10 接合



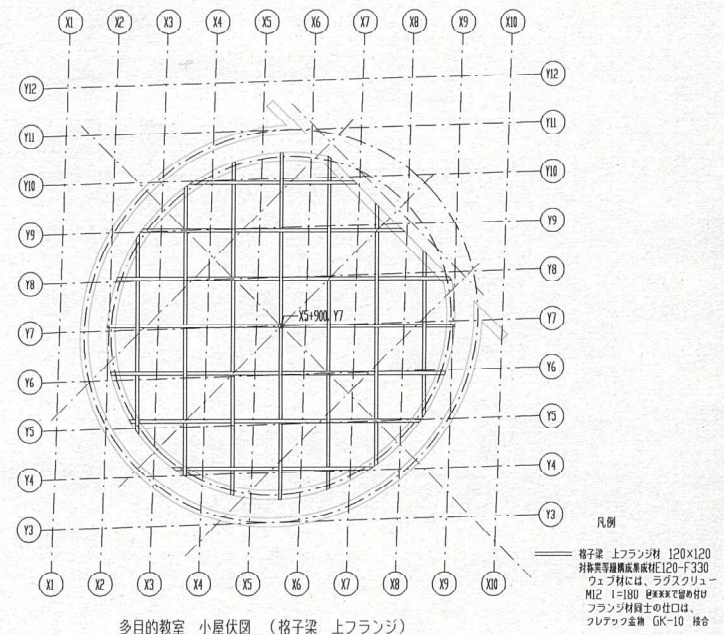
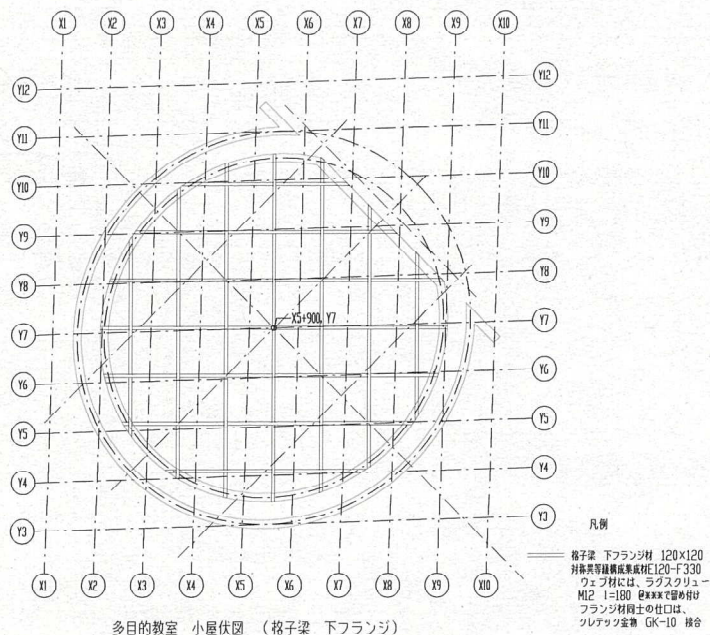
凡例

格子梁 上フランジ材 120×120
 対称異種鋼集成材 E120-F330
 ウェブ材には、ラグスクルー
 M12 1=180 2×3×5で留め付け
 フランジ材同士は、
 フレックツ金物 GK-10 接合

※この図面は、3.5寸均配の均配面に對して投影しています。



※格子梁は、ウェブ材の仕口とフランジ材の仕口が入れ子になるように置む



W1: 壁(円筒部分) 厚さ 300
縦筋 D13@200
横筋 D13@200
ダブル配筋

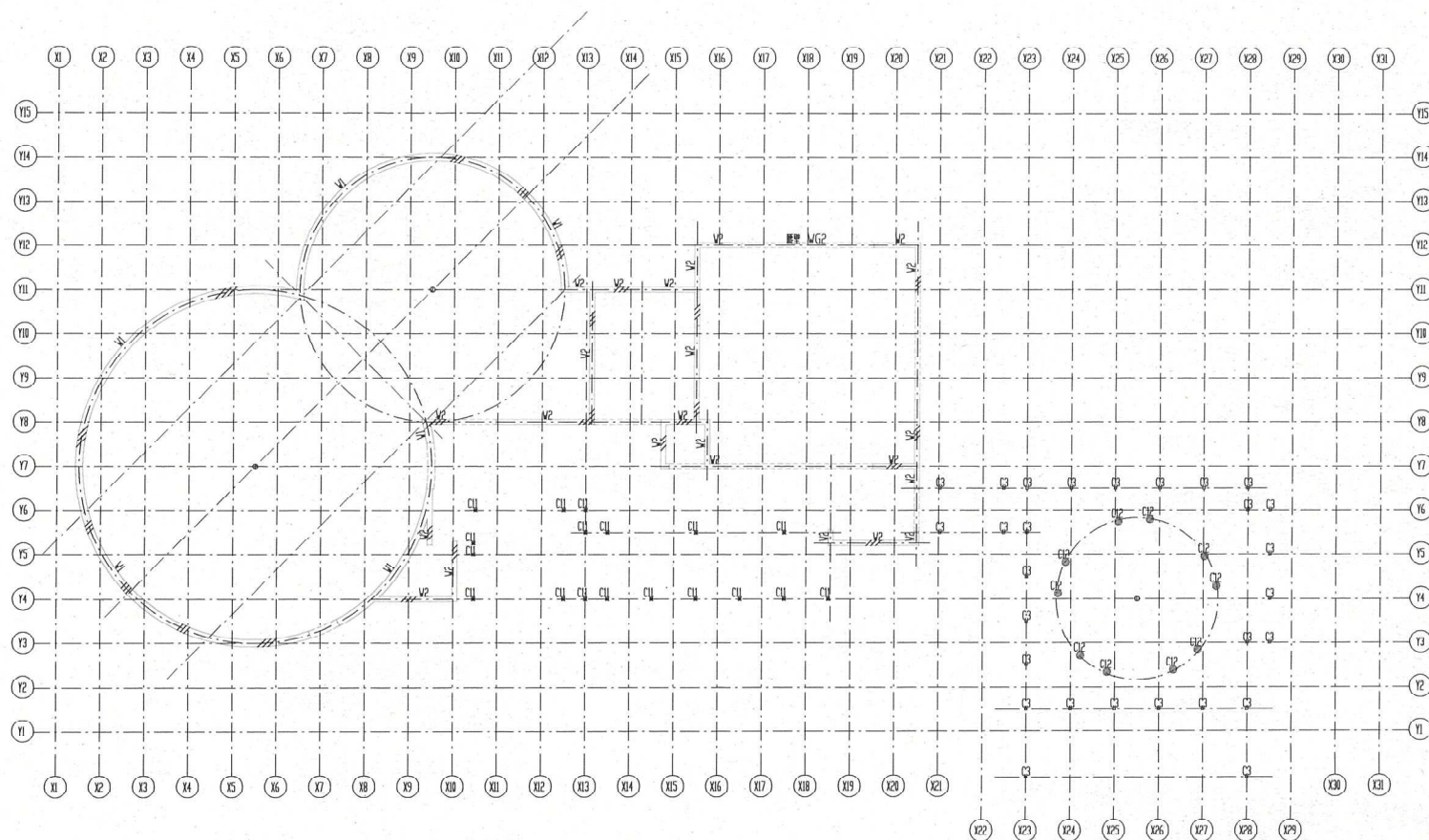
W2:壁(トイレ・図工室部分) 厚さ 200
縦 D10@200
横 D10@200
ダブル配筋

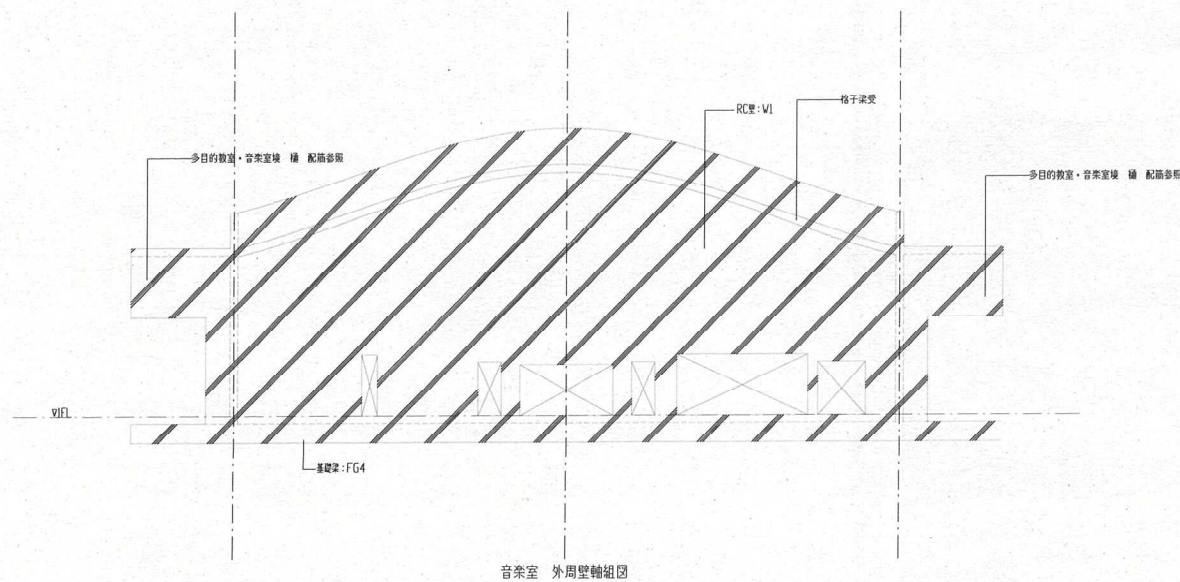
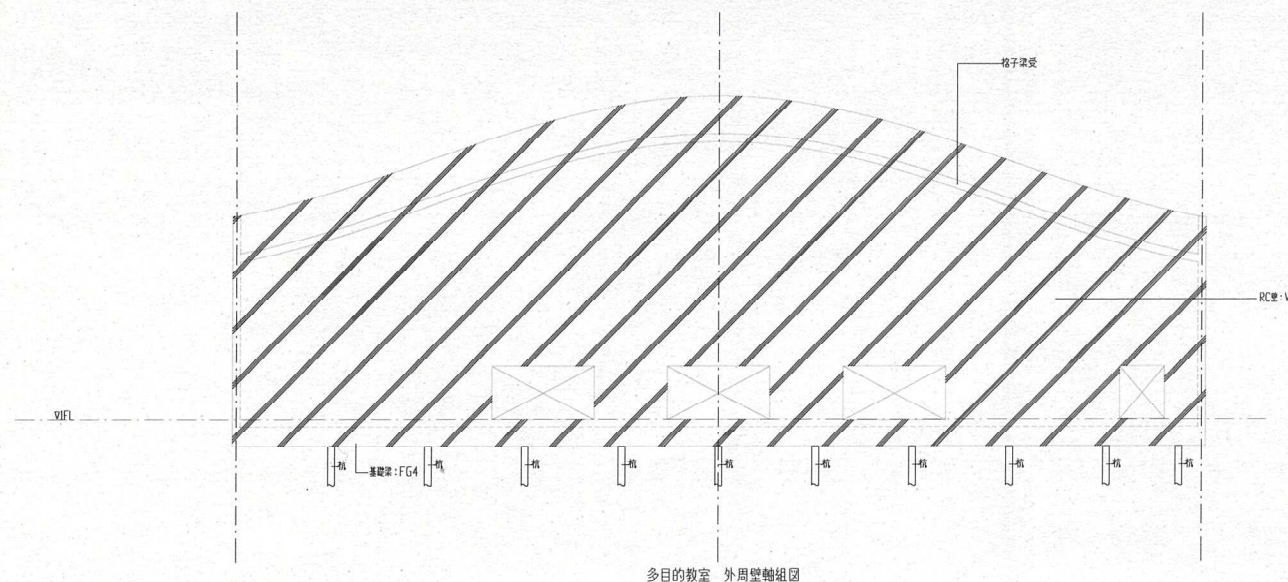
WG2: 壁壁 幅200
上端筋 2-D16
縦筋 D10@200 で地中梁に定着
横筋 D10@200
ダブル配筋

C11: 木柱 120×120
同一等鐵構成集成材
E120-F375

C12
C12: 木柱 300
地場産スギ丸太

C3: 角型鋼管柱 100×100 厚 3.2





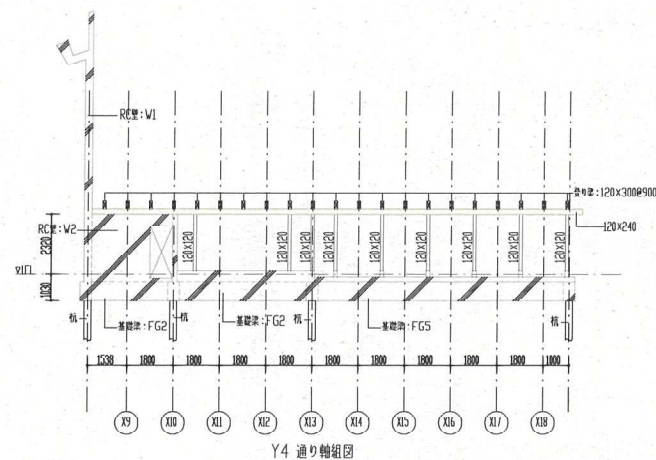
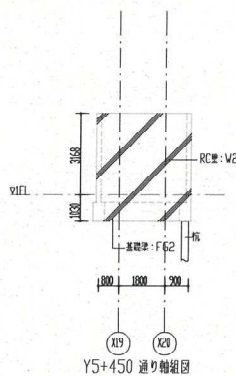
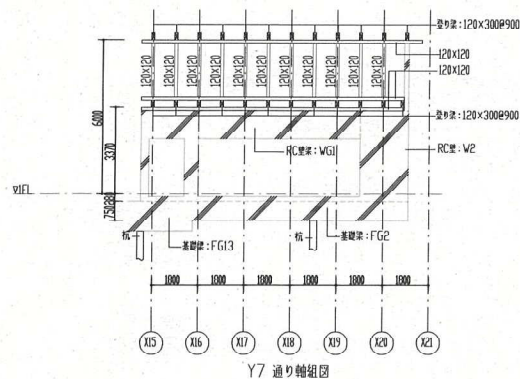
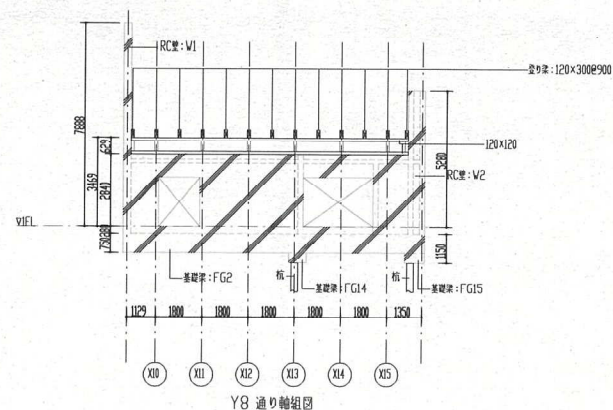
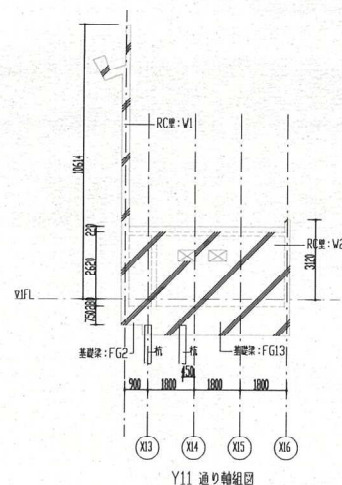
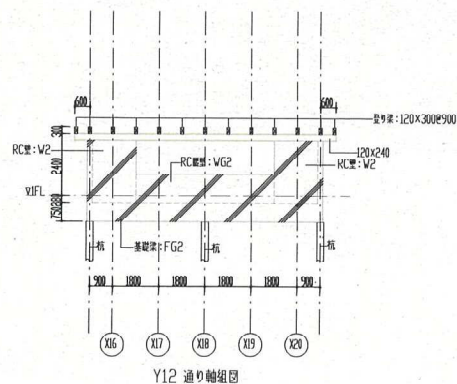
凡例

桁: 目形管入羽根付鋼桁 4267.4mm
 桁距: 6500mm 桁天端=GL-800mm
 桁端処理: 右図のピン継合とする
 設計荷重は、全て 400kNとする
 設計荷重に応じて先軸間径を選択する

FG4: 単中径 450x750
 主筋 上下とも 4-D25
 おぼろ筋 D10@150
 腰筋 2-U10、一段
 幅方向 D10@1000

V1: 壁(内周部分) 厚さ 300
 縦 D13@200
 横 D13@200
 シールド配筋

	・ ・ ・	図	13R	図	28	比田町立九十九小学校附属校舎改修工事		
		・	2005.06	・	2005.08.24	多目的教室棟・集いの広場 軸組図 1	1/100	S 12
		・		・		RC部分		



凡例

杭：回転貫入羽根付鋼管杭 $\phi 267.4\text{mm}$
 杭長 6500mm 杭先端=GL-800mm
 杭頭処理：右側のピン接続とする
 設計荷重は、全て 400kNとする
 設計荷重に応じて先端管径を選択する

FG2:地中梁 450x750
主筋 上下とも 2-D25
あばり筋 D10@150
腹筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG5:地中梁 450×750
主筋 上下とも 5-D25
あばら筋 D10@150
腹筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG13: 地中梁 450×1150
主筋 上下とも 2-D25
めげ筋 D10@150
底筋 4-D10, 2段
幅止筋 D10@1000

F614:地中梁 450×1150
主筋 上下とも 4-D25
おびら筋 D10@150
腹筋 4-D10, 2枚
幅止筋 D10@1000

FG15:地中梁 450x1150
主筋 上下とも S-D25
おび筋 D10@150
腹筋 4-D10, 2段
幅止筋 D10@1000

W1: 壁(円筒部分) 厚さ: 300
 縦 D13φ200
 横 D13φ200
 ダブル配筋

W2: 壁(トイレ・国工室部分) 厚さ 200
 床 D10E200
 床 D10E200
 ダブル配筋

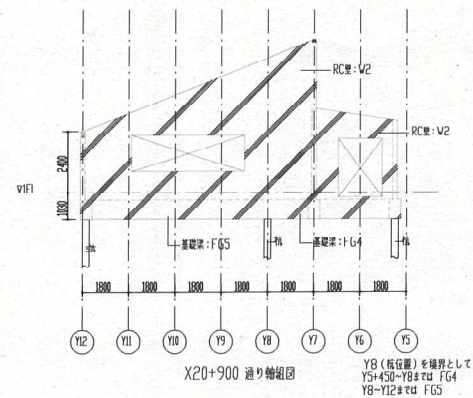
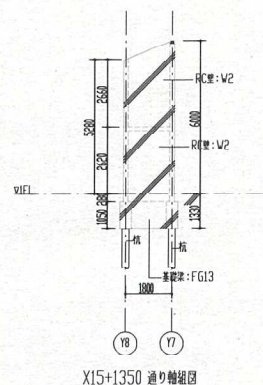
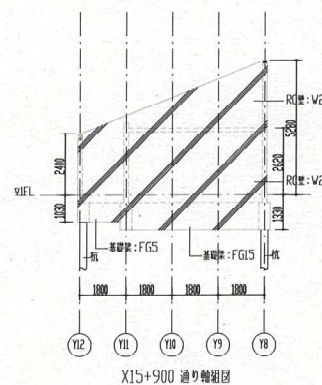
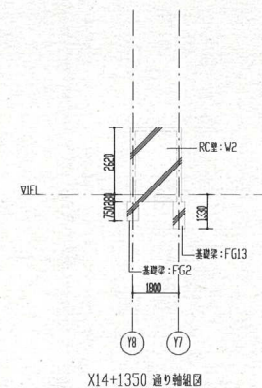
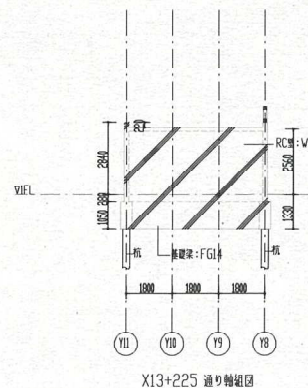
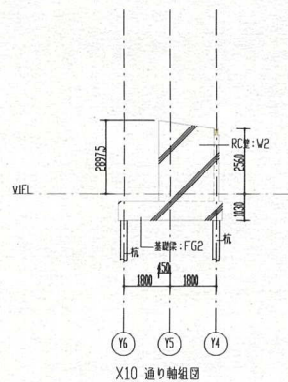
WG1: 壁梁(Y7通り 図工室・ギャラリー境)
幅200 x 高1100
上下主筋 2-D22
渡筋 4-D10 2段
STP D10@200
※この壁梁の上に、木の桁3段配置

WG2:要壁 幅200
上端筋 2-D16
縦筋 D10@200 地中壁に定着
横筋 D10@200
ダブル配筋

S2:屋根スラブ 厚さ 150
(WC1・身障者WC3上部)
床 D13@150
鉄筋 D13@150
シングル配筋

木部分の柱、桁の樹種は、同一等級構成集成材E120-F375

[illegible]



凡例

杭：回転貫入羽根付鋼管杭 $\phi 267.4\text{mm}$
 板長 6500mm 板間隔=GL-800mm
 杭頭処理：右側のピン接続とする
 設計荷重は、全て 400kNとする
 設計荷重に応じて先端管径を選択する

FG2: 地中梁 450x750
主筋 上下とも 2-D25
あばら筋 D10@150
腰筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG4:地中梁 450x750
主筋 上下とも 4-D25
あばら筋 D10@150
腰筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

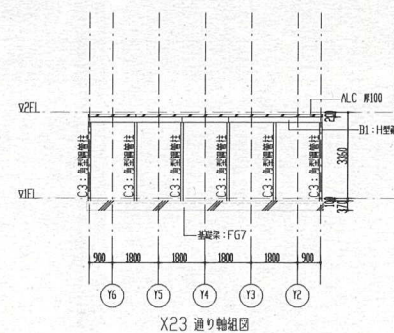
FG5:地中梁 450x750
主筋 上下とも 5-D25
あばら筋 D10@150
腰筋 2-D10、一段
幅止筋 D10@1000

FG13:地中梁 450×1150
主筋 上下とも 2- Φ 25
あばら筋 Φ 10@150
腹筋 4- Φ 10, 2枚
幅止筋 Φ 10@1000

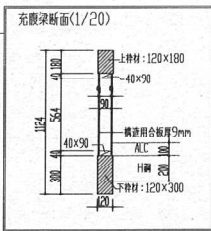
FG14:地中梁 450×1150
主筋 上下とも 4-D25
あばら筋 D10@150
腹筋 4-D10, 2段
幅止筋 D10@1000

FG15:地中梁 450×1150
主筋 上下とも 5-D25
おびら筋 D10@150
隅筋 4-T10, 2本
幅止筋 D10@1000

W2:壁(トイレ・図工室部分) 厚さ 200
床 D10E200
構 D10E200
ダブル配筋



木部分の柱、桁の樹種は、同一等級構成集成材E120-F375

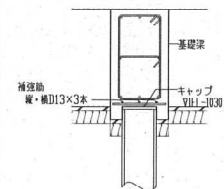


	・ ・ ・ ・	100 130K 200K	100M 530 2005.3.24	長井田町立九十九小学校給食校舎改築工事 多目的教室棟・集いの広場 耐組図 4	1/100	15 S — 15

凡例

- 鋼管貫入型杭付鋼管杭 $\phi 267.4\text{mm}$
 $\times$ 鋼管杭 $\phi 300-9.350$
 板長 6500mm 板厚=61-800mm
 杭頭処理：右図のピン接合とする
 長期設計荷重は、特記無き場合 400kNとする
 鋼管貫入型杭付鋼管杭の場合は、設計荷重に応じて先端部を調整する
 PHC杭の場合は、設計荷重に応じて杭径を選択する
 ※なお、杭は、鉛直荷重のみ負担とし、地震力は地中梁側面と地盤に伝達するため、
 地震時の杭の曲げ応力は発生せず、地震時転倒モーメントによる鉛直荷重の増分も
 長期鉛直荷重に対して小さいため、長期設計荷重に対しての杭径の選択のみでよい

杭頭処理 $S=1:20$ (鋼管杭の場合)



円筒断面 (X25+897.31, Y16)

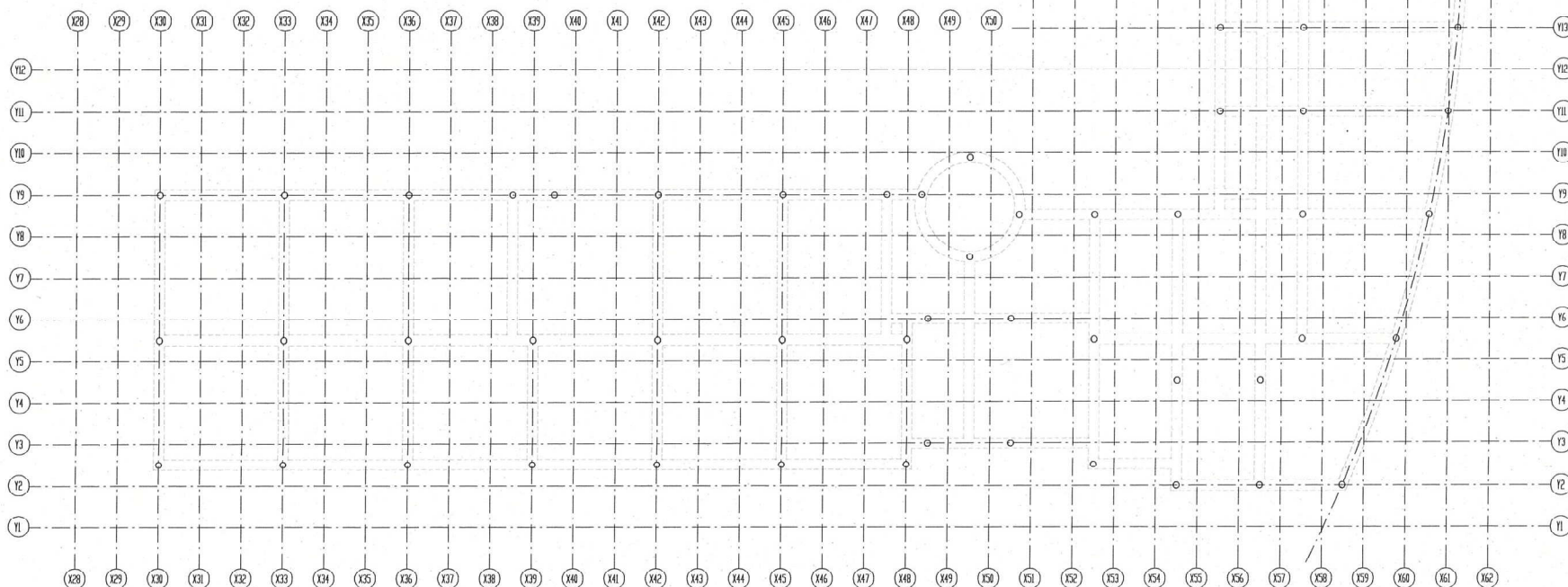


		図 13K 図 13M 2005.4.11	松井田町立九十九小学校校舎改築工事 数室棟 杭伏図	1/100 16
--	--	-----------------------------	------------------------------	-------------

		JIS TSM	JIS No. 508	松井町立九十九小学校危険度調査工事		
		NOVING	BITE 20MS(44)	教室棟 基礎伏阻 ①（地中梁）	1/100	No. S — 1

凡例

FG7: 外周基礎壁
200X370
上主筋 1-D13
下主筋 2-D13
おぼろ筋 D10@200

FG8: 内部基礎壁
200X370
主筋 上下とも 2-D13
おぼろ筋 D10@200

FG9: 外周基礎壁(FG7)+立ち上がり
断面幅 200
上主筋 1-D13
下主筋 2-D13
おぼろ筋 D10@200
立ち上がり幅120 天端高=FL+140

FG10: (立ち上りのみ)
幅200 天端高=FL+140
主筋 上下とも 1-D13
おぼろ筋 D10@200
地中梁 (FG1-FG3) 上部にならしめスラブル30の上、立ち上りをつける

SI: 基礎スラブ 厚さ 150
幅 D13@200
幅 D13@200
シングル配筋
括弧内は、1FLに対する天端高

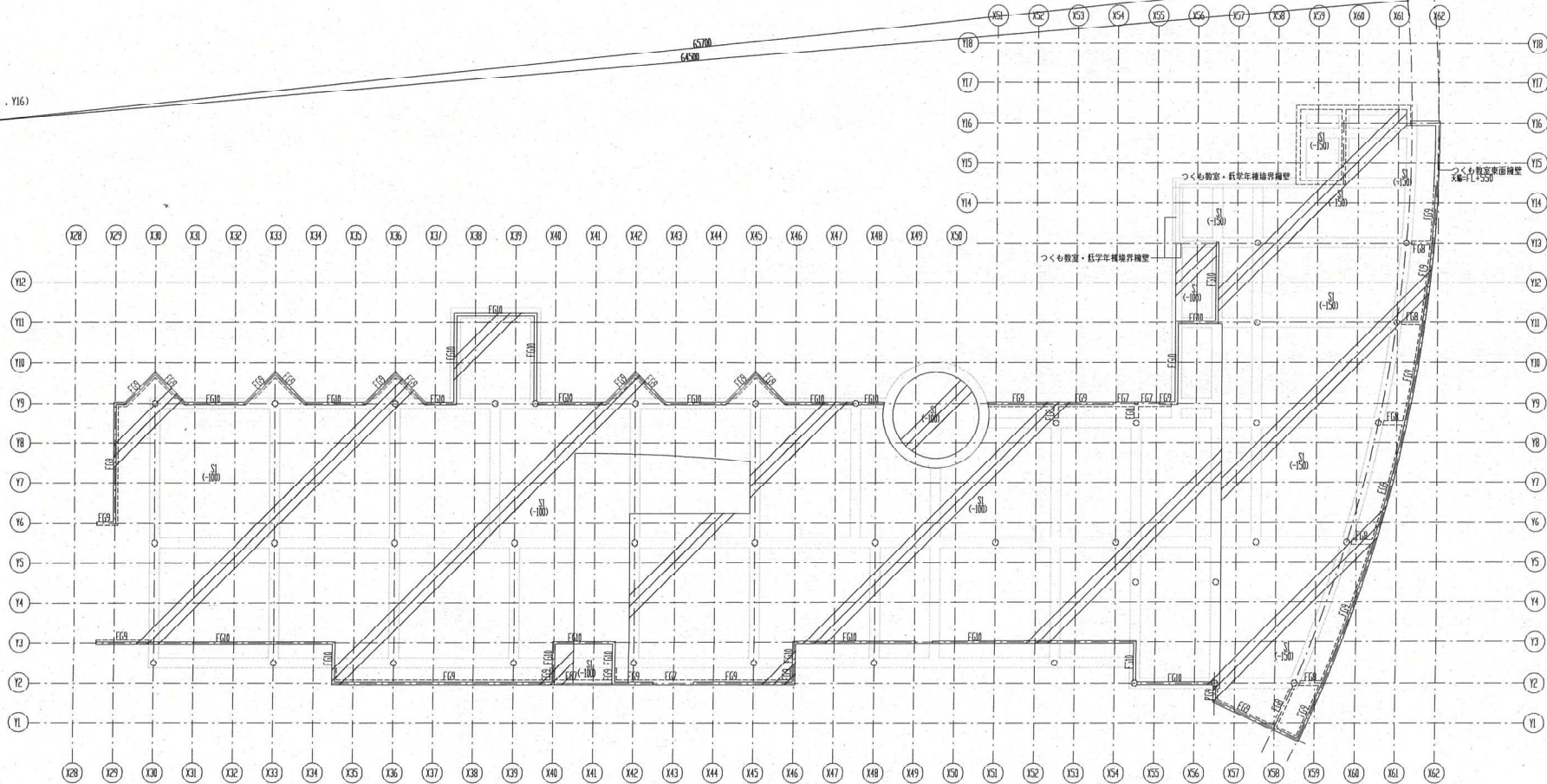
つくも教室車面擁壁(仕様がW4と同じ)
厚 180
幅 D10@200
幅 D10@200
ダブル配筋
天端=FL+550

つくも教室・低学年種縁界壁
厚 180
幅 D10@200
幅 D10@200
ダブル配筋
下部基礎壁FG1、及び、低学年種縁のスラブS1と一体とする
天端高=1FL+1180 (=H2FL-100)

○ 鋼管柱位置
外壁下立ち上がり、及び、SIに対して、柱間となる

※地下ピット上部は、本図様
対称式等価断面図E120-F330
120X210@200
(全:120X120@200以下とする)

内蔵配点 (X25+897.31, Y16)



凡例

120x210 地下ピット底梁: 120x210@900
列柱等継手部: 120-F330
床立て (120x120@2000) 有り

根太: 45x60@450

根太 (つくも敷室): 45x90@450

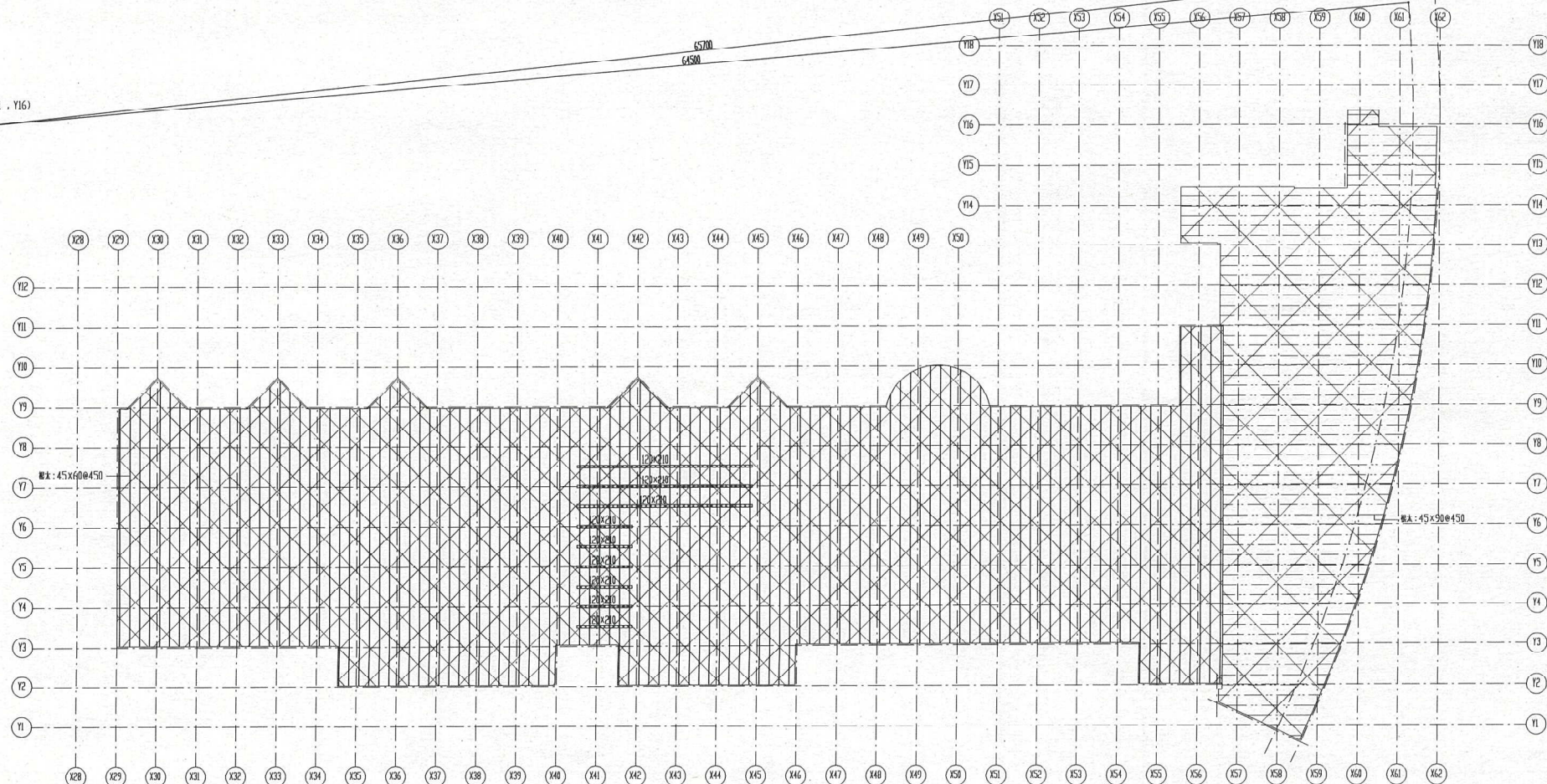


構造用合板 厚12 (つくも敷室)



構造用合板 厚15

円錐頂点 (X25+897.31, Y16)



		図面 13A DRAWING	図号 538 DATE 2005.03.15	松井田町立十九小学校危機管理委員会改修工事 教室棟 1階床伏図 1/100 19
--	--	----------------------	---------------------------------	---

凡例

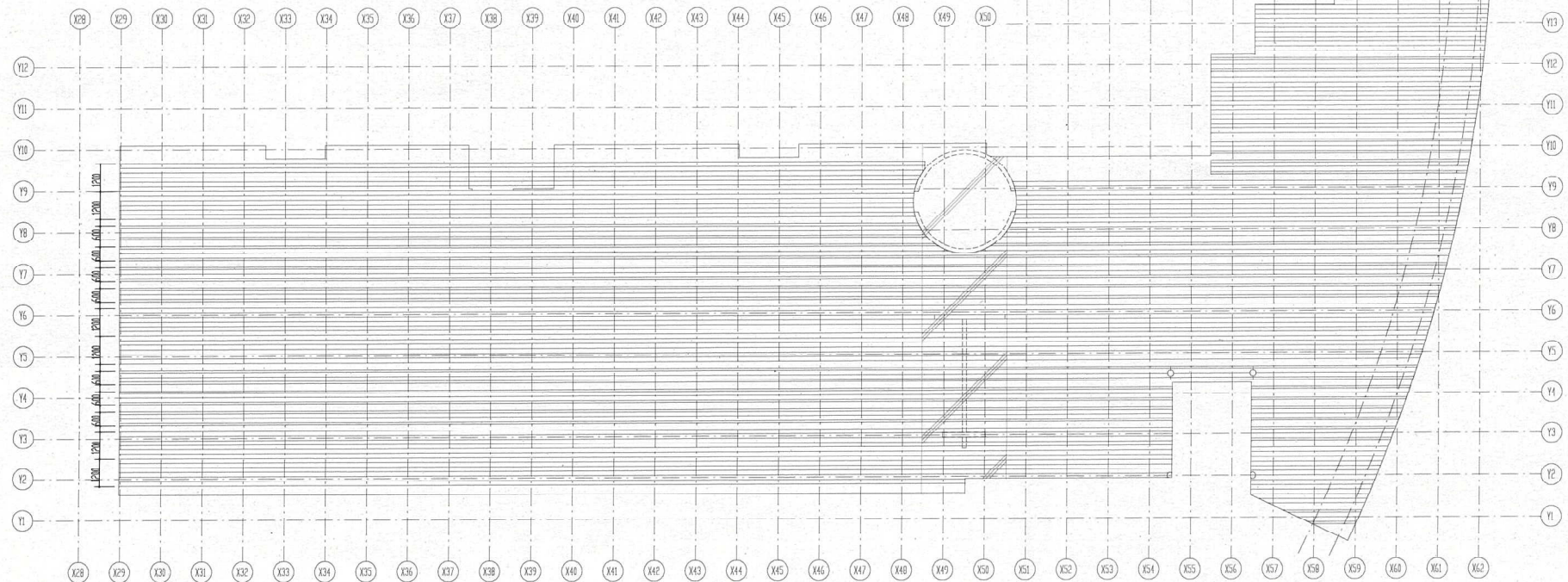


2階床 下層LVL 厚30 板行方向

半径 $r = 64500$

65752.69

円弧起点 (X25+897.31, Y16)



		図名 TSK 図号 20050411	校田町立九十九小学校危険校舎改築工事 観望棟 2階床LVL (LVLスラブ 下層LVL)	1/100	20
--	--	-----------------------------	--	-------	----

凡例

105×360 非鉄系等価構造用集成材 E120-F330 (レッドウッド)
床梁と板の仕口は、
クレーク金物 GK-30 接合 (E900)

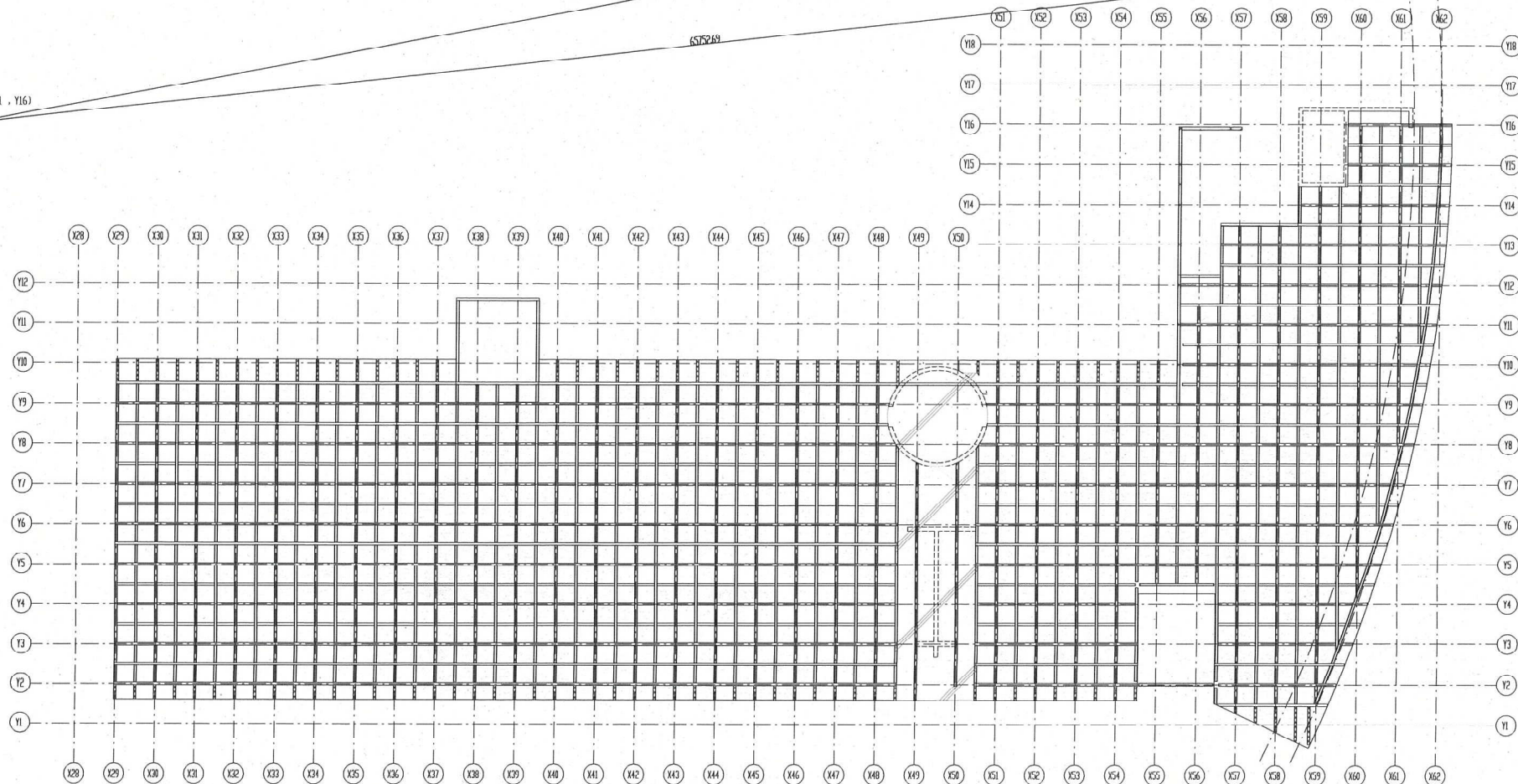
105×390 非鉄系等価構造用集成材 E120-F330 (レッドウッド)

設置用スリッパ 100φ 32ヶ所 150φ 259ヶ所

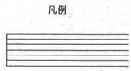
R_外 r = 64500

65752.69

円周角点 (X25+897.31, Y16)



		図面 TSUK DRAWING 330 DATE 2005.04.11	松田町立九十九小学校島根校舎改築工事 教室棟 2階床伏図 2 (LVLスラブ 梁 板[ウェブ])	1/100	21
--	--	--	--	-------	----

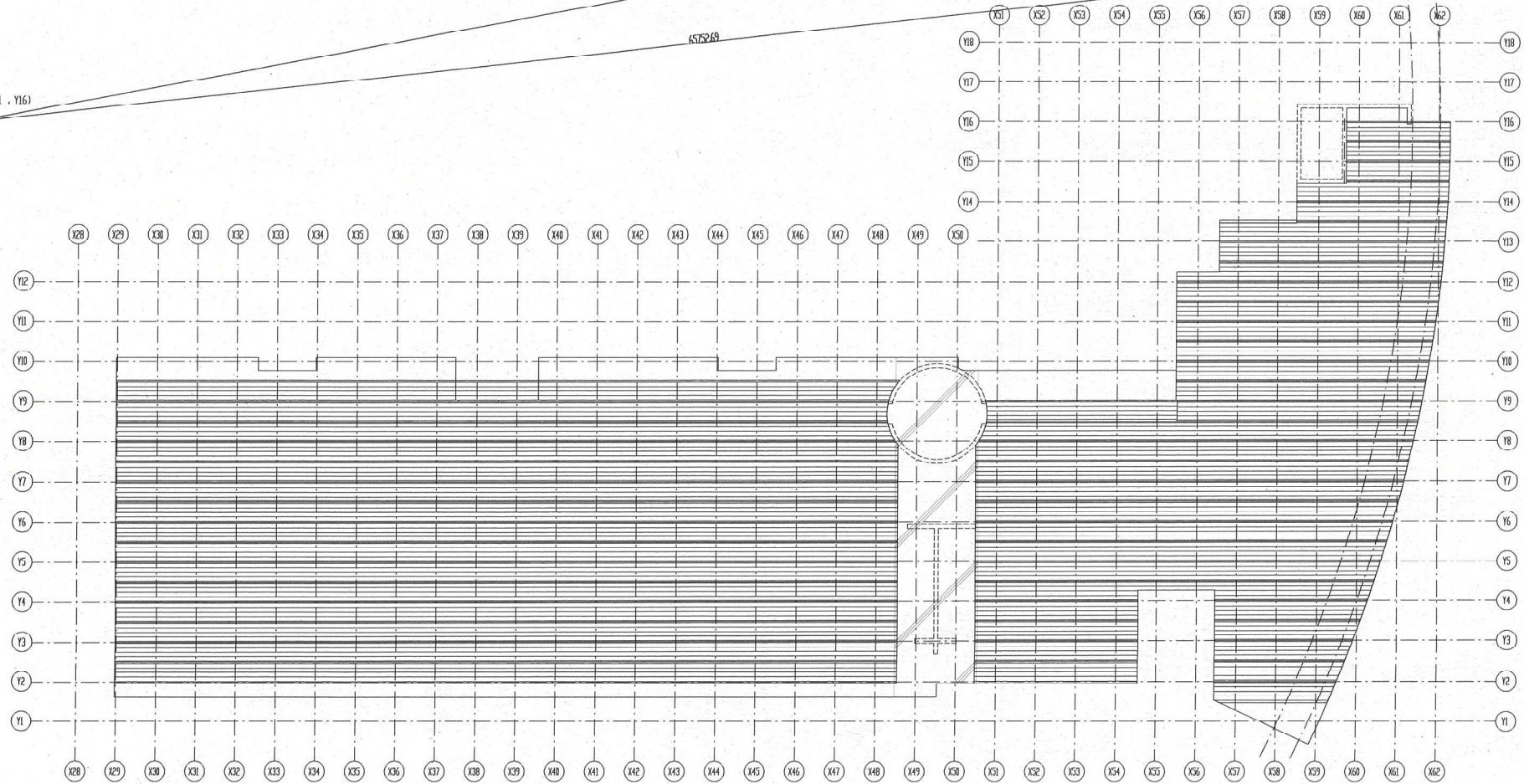


2階床 上階 LVL 厚30 板行方向

半径 $r = 64500$

65752.69

円弧起点 (X25+897.31, Y16)



・
・
・
・

13K
2005.4.11

2005.4.11

松田町立九十九小学校危機管理委員会
教室棟 2階床伏図 3
(LVLスラブ 上階 LVL 板行方向)

1/100

22

凡例（本造部分）



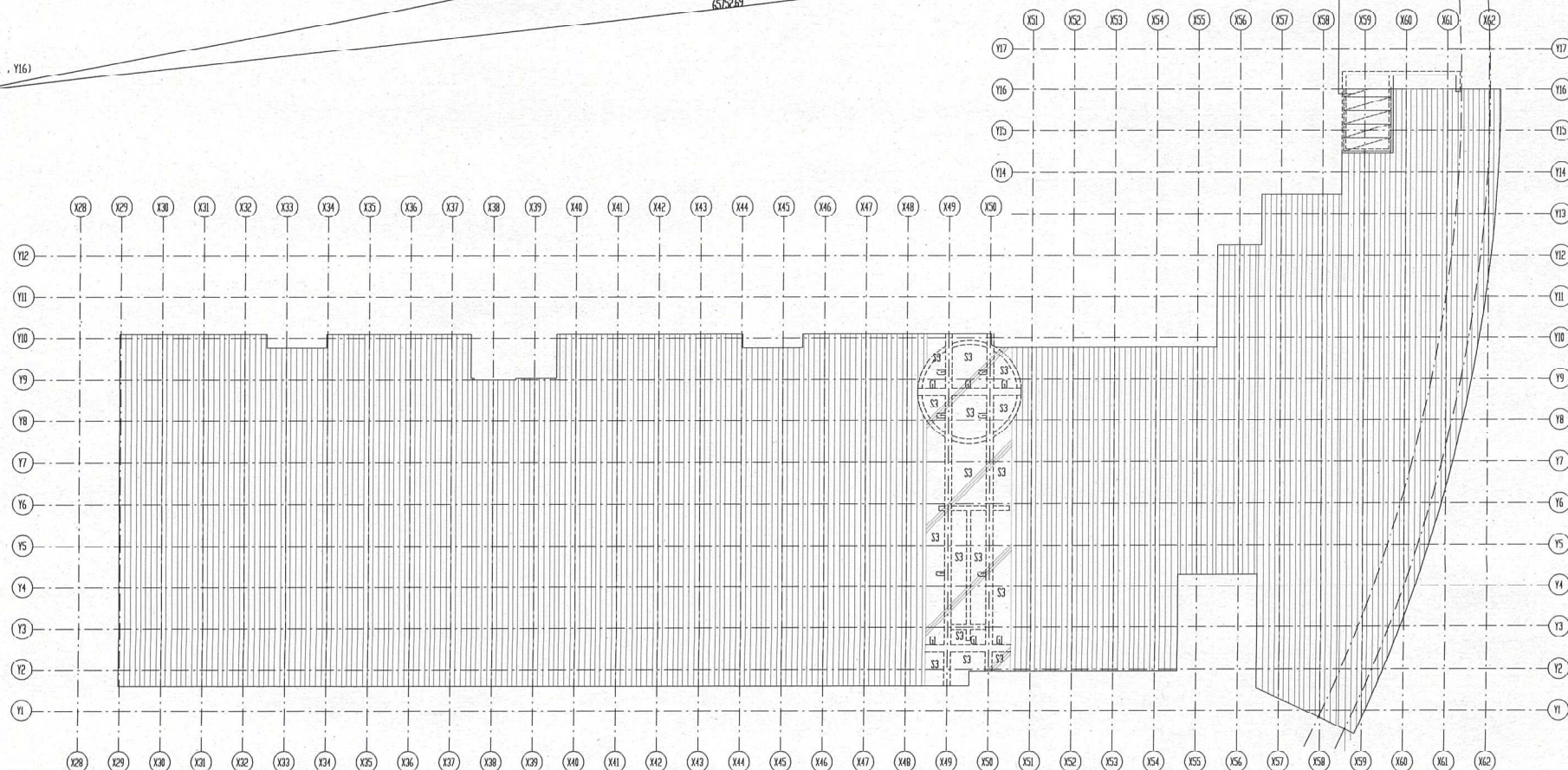
2階床 上端LVL 厚30 梁間方向

円周中心 (X25+897.31, Y16)

RH r=64500

657269

消火栓ポンプ室上部床: ALC板 幅600×厚さ100



. . .	. . .	図 538	松田町立九十九小学校校舎改修工事		1/100	S — 23
		DATE 2005.04.11	教室棟 2階床伏図 4	(LVLスラブ 上端LVL 梁方向 及び ALC板)		

凡例

2階柱・壁下部 土台 120×80

床敷木 45×80@450



構造用合板 厚15

2階柱位置

R=64500

円弧中心 (X25+897.31, Y16)

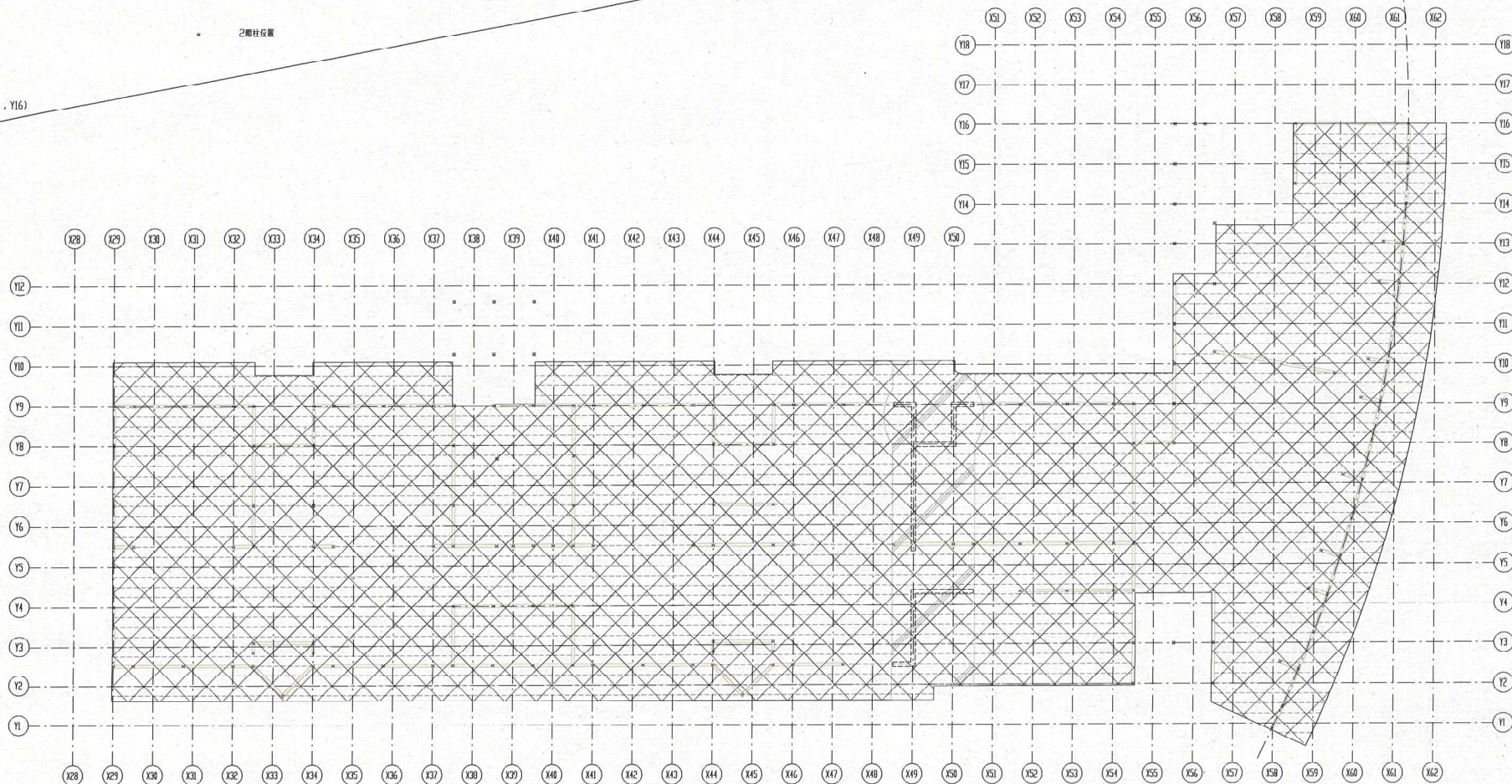


		図 13K 図名 2015.4.11	松田町立九十九小学校危険校舎改修工事 教室棟 2階床伏図 5 (床下地 2階土台)	1/100	24
--	--	--------------------------	---	-------	----

凡例 (RC造)

S4 : 屋根スラブ (耐火区画) 厚さ 180
部材: D11φ200
部材: D11φ200
ダブル配筋

W4 : 壁 (耐火区画・EV) 厚さ 180
部材: D11φ200
部材: D11φ200
ダブル配筋

凡例 (木造)

2階床 120×270φ900
対称等価継ぎ目材 E120-F330
X28+900-X36+900の辺り又は
左側欄外のように組む

軒: 対称等価継ぎ目材 E120-F330
Y9通り, Y2.5通り (軒ライン): 120×240
Y5.5通り (トップライト): 上下2段
上 120×120
下 120×330

X55.5通り, 内壁上 (軒ライン): 120×240
X56.5通り (トップライト): 上下2段
上 120×120
下 120×330

その他 壁上の留まり:
括弧内数字は、軒筋からの高さ

長尺 長尺材: 対称等価継ぎ目材 E120-F330 120×240
天端高さ = 軒筋天端高さ

隅木 対称等価継ぎ目材 E120-F330 120×270

2階柱 120×120
同一等価継ぎ目材 E120-F375

小屋梁 120×120
同一等価継ぎ目材 E120-F375

面木: コンピューター室上部 (内装材の面木): 60×60φ450
その他: 45×45φ450

※X48.5-X50.5の耐火区画上部は、
屋根スラブS4の下に、木造小屋梁を設ける

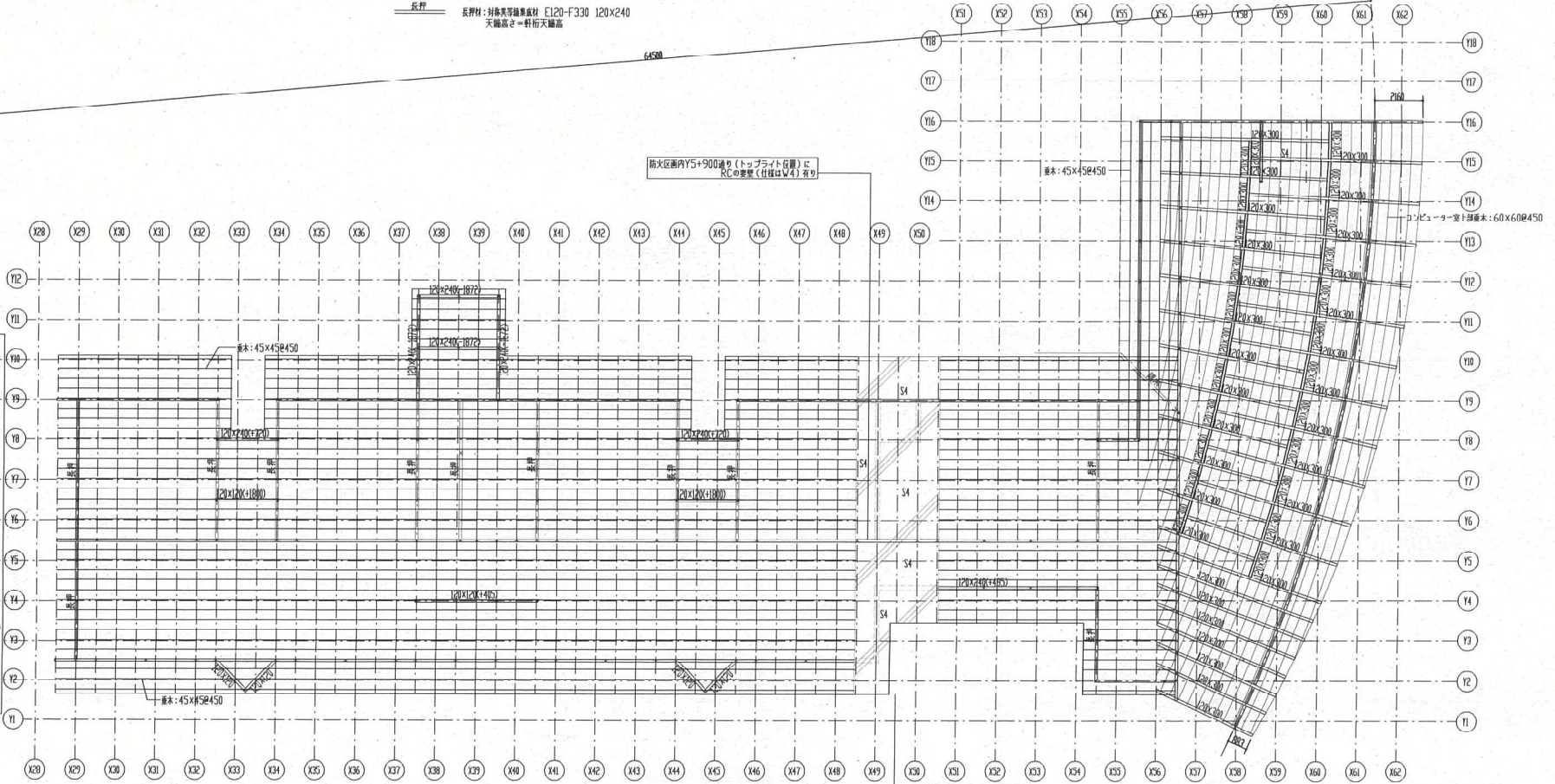
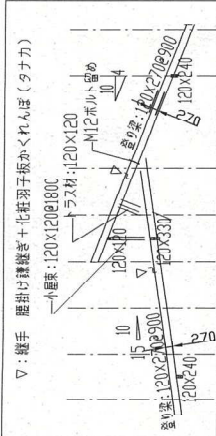
内装断点 (X28+89/31, Y16)

4500

耐火区画内Y5+900通り (トップライト位置) に
RCの窓壁 (仕様はW4) 有り

面木: 45×45φ450

コンピューター室上部: 60×60φ450



※X48.5-X50.5の耐火区画上部は、
屋根スラブS4の下に、木造小屋梁を設ける

凡例 (S系)



一般構造用圧入鋼筋 外径267.4mm 長さ9.0mm
上部に円形 (径1700) のスラブ受け材有り



一般構造用圧入鋼筋 外径267.4mm 長さ9.0mm

凡例 (RC造)

W3: 壁 (鉄水圧側) 厚さ 200
縦 D10@200
横 D10@200
ダブル配筋
端部補強筋 2-D22

W4: 壁 (鉄水圧側・EV) 厚さ 180
縦 D10@200
横 D10@200
ダブル配筋
開口部補強筋 縦・横 2-D16
斜め 1-D16

凡例 (木造)



C11: 木柱 120x120
同一等級集成材
E120-F375



C13: 木柱 120x240
対称同等集成材
E120-F330

円筒型 (X25+897.3L, Y16)

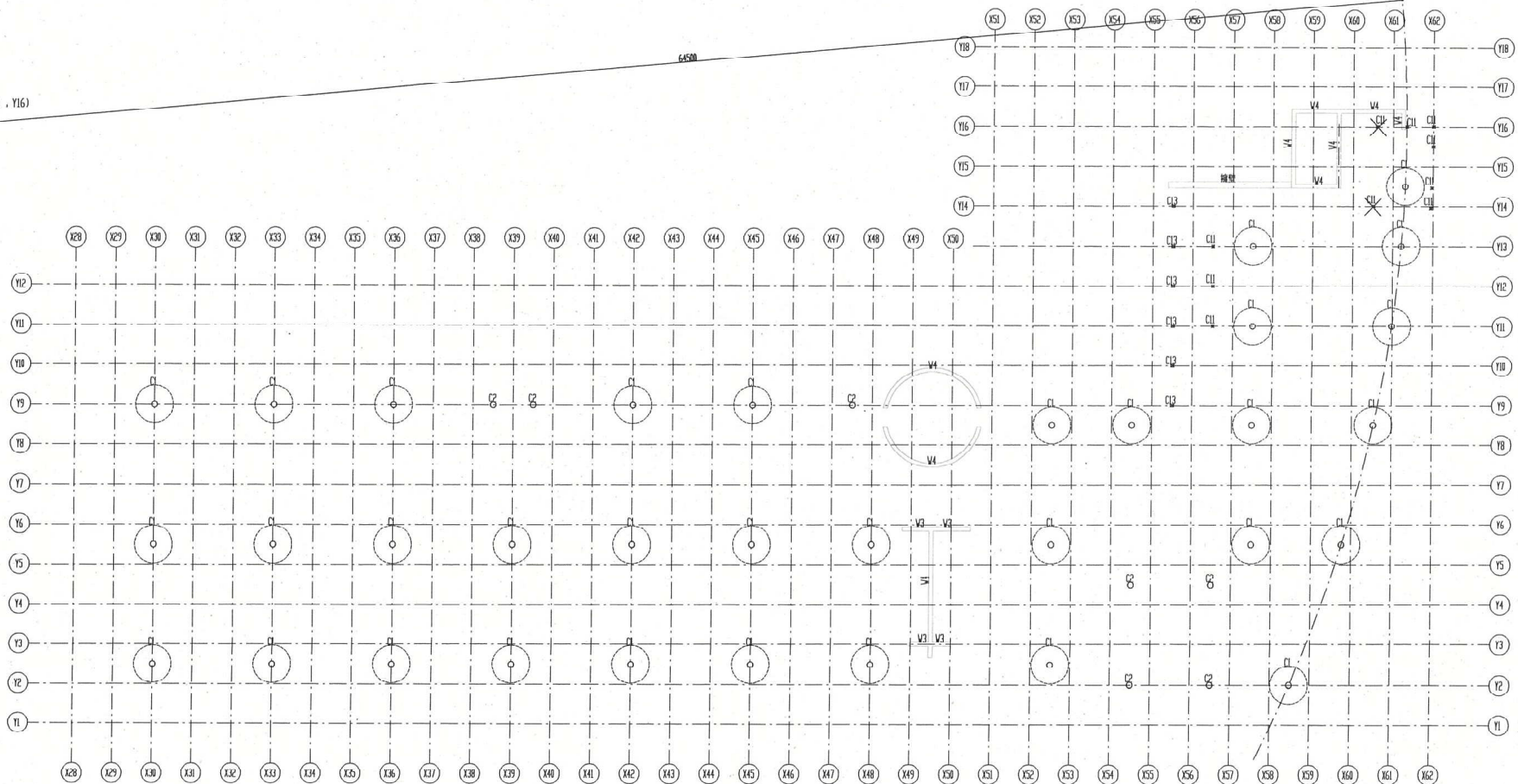


		図 TSJK 図 338 図 2005.04.11	松井田町立九十九小学校避難校舎改築工事 教室棟 柱梁伏図 1階	1/100 S — 26
--	--	---------------------------------	------------------------------------	-----------------

凡例 (RC造)

W4: 壁 (断面比厚) 厚さ 180
 筋 D10@200
 横 D10@200
 グラブル配筋
 開口部減断筋 縦・横 2-D16
 斜め 1-D16

凡例 (木造)

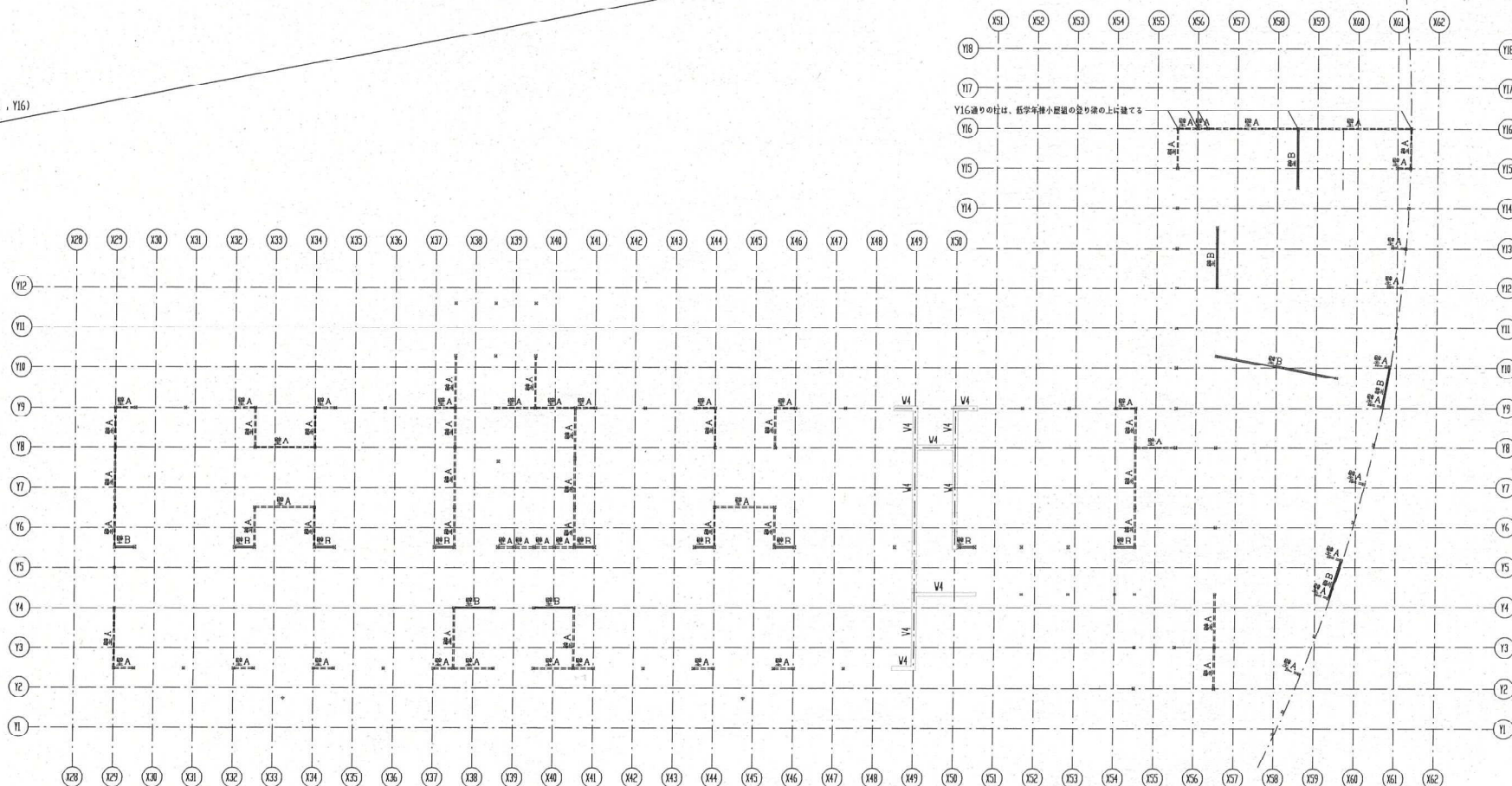
柱 同 等価断面積材120 (73750 120x120)

壁A
 構造用合板 厚さ7mm 片面張り耐力壁 2.5倍
 真鍮仕込、受け材タイプ

壁B
 ポリカーボネイト板 両面張り耐力壁 5.0倍
 真鍮仕込、受け材タイプ

半径 $r = 64500$

円弧起点 (X25+897.31, Y16)

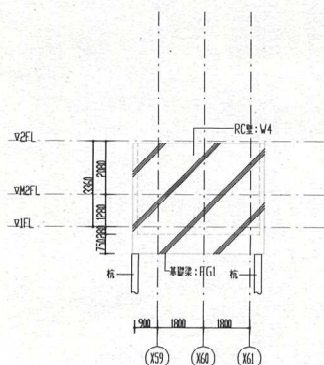




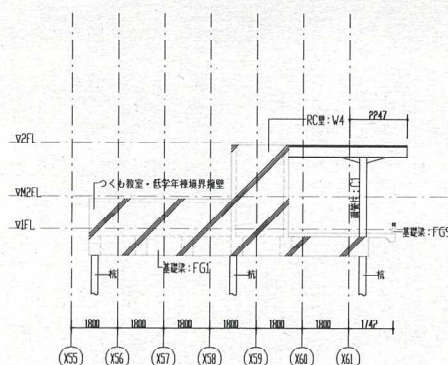
※丸数字は、床伏図の番号を示す

教室棟 2階床 断面図

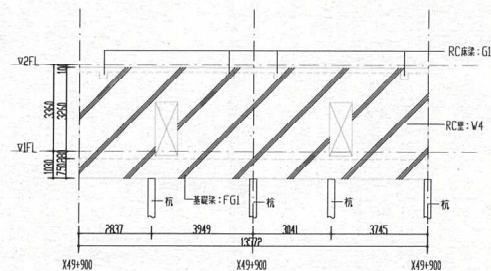
			第 70	第 79	松井町立九十九小学校危機安全対策工事					
			第 80	第 89	教室棟 2階床 断面図			1.20	面	5 — 28



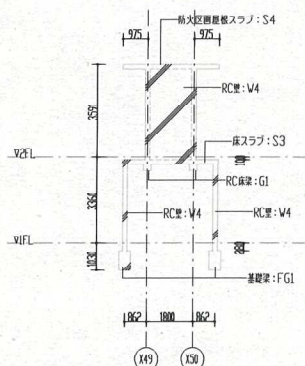
Y16+715 通り軸組図



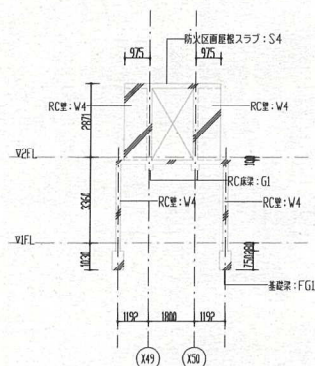
Y14+900 通り軸組図



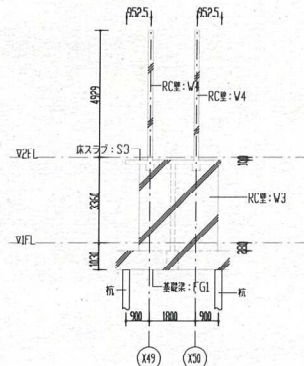
資料室円 通り軸組図



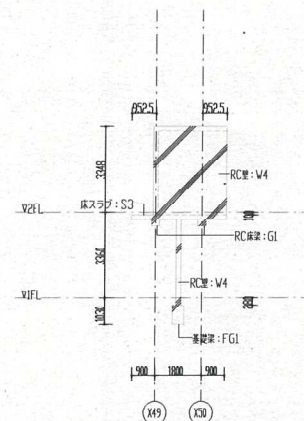
Y8 通り軸組図



Y9 通り軸組図 (防火区画)



Y5+1600 通り軸組図



Y4+600 通り軸組図

凡例
鉄: 鉄筋挿入羽根付鋼管杭 径267.4mm
又は、PHC杭φ300-φ350

FG1: 地中梁 450x750
主筋 上下とも 3-D19
あはら筋 D10@150
腰筋 2-D10、一段
軸止筋 D10@1000

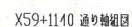
V4: 壁 (防火区画) 厚さ 180
縦 D10@200
横 D10@200
ダブル配筋
開口部補強筋 縦・横 2-D16
斜め 1-D16

S3: 2階床スラブ 厚さ 180
縦 D10@200
横 D10@200
ダブル配筋

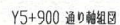
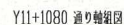
S4: 屋根スラブ (防火区画) 厚さ 180
縦 D13@200
横 D13@200
ダブル配筋

G1: 2階床梁 300x420
上端主筋 2-D19
下端主筋 3-D22
あはら筋 D10@200

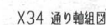
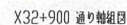
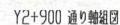
CI: 一般構造用中空コンクリート 外径267.4mm 厚さ90mm
上部に円形 (径1700) のスラブ受け材有り



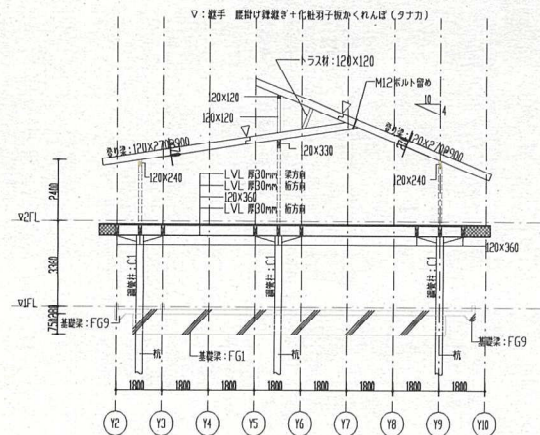
壁日
ポリカーボネイト板 両面張り耐力壁 5.0倍
真壁仕様、受け材タイプ



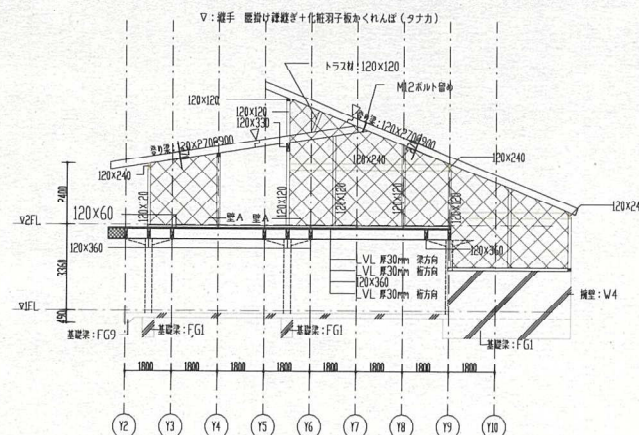
壁B ポリカーボネイト版 両面張り耐力壁 5.0倍
専断仕様 受材タイプ



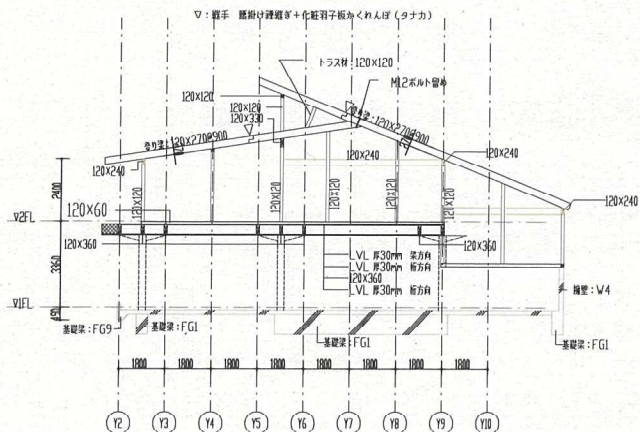
壁B ポリカーボネイト版 両面張り耐力壁 5.0倍
直壁仕様、受け材タイプ



X36通り輪組図



X37+900 通り輪組図



X37+900 通り輪組図

凡例

柱: 回転入羽根付鋼管柱 $\phi 267.4\text{mm}$
又は、PHL 径 $300\sim\phi 350$

FG1: 地中梁 450×750
主筋 上Dとも 3-D19
おぼろ筋 D10@150
間筋 2-D10、一投
幅上筋 D10@1000

W4: 窓 (前大区画) 厚さ 180
幅 D10@200
幅 D10@200
ダブル配筋
開口部補強筋 縦・横 2-D16
斜め 1-D16

S1: 基礎スラブ 厚さ 150
幅 D10@200
幅 D10@200
シングル配筋
括弧内は、1FL に対する天端高

S3: 2階床スラブ 厚さ 180
幅 D10@200
幅 D10@200
ダブル配筋

S4: 屋根スラブ (前大区画) 厚さ 180
幅 D10@200
幅 D10@200
ダブル配筋

GI: 2階床梁 300×420
上端主筋 2-D19
下端主筋 3-D22
おぼろ筋 D10@200

C1: 一般構造用引当鋼管 外径 267.4mm 厚さ 9.0mm
上部に円形 (径 1700) のスラブ受け材有り

木部分の柱、桁の仕様は、同一等級構造用集成材 E120-F375

壁 A
構造用合板 (1種) 厚さ 9mm 片面張り耐力壁 2.5倍
真壁仕様、受け材タイプ

壁 B
ポリカーボネイト板 片面張り耐力壁 5.0倍
真壁仕様、受け材タイプ

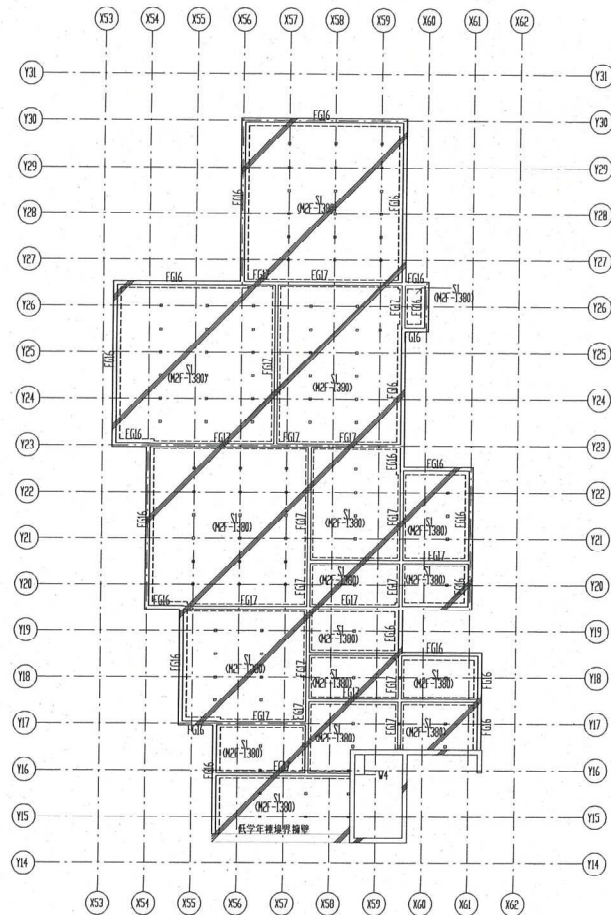
凡例

FG16: 外周基礎梁
300×1600
立上φ: M150×1230
上土筋 1-D13
下土筋 2-D13
縦筋 (あがり筋) D13@150
横筋 D10 3筋

SL: 基礎スラブ 厚さ 150
縦 D13@200
横 D13@200
コンクリート配筋
括弧内は、1F.L. (教室棟1階) に対する天端高
M2FL-1380=1FL-100

床高: 90×90

FG17: 内部基礎梁
300×1600
立上φ: M120×1230
上土筋 1-D13
下土筋 1-D13
縦筋 (あがり筋) D13@150
横筋 D10 3筋



低学年棟 基礎伏図

凡例

土台: 120×120
列状等間隔配筋 E120-F330

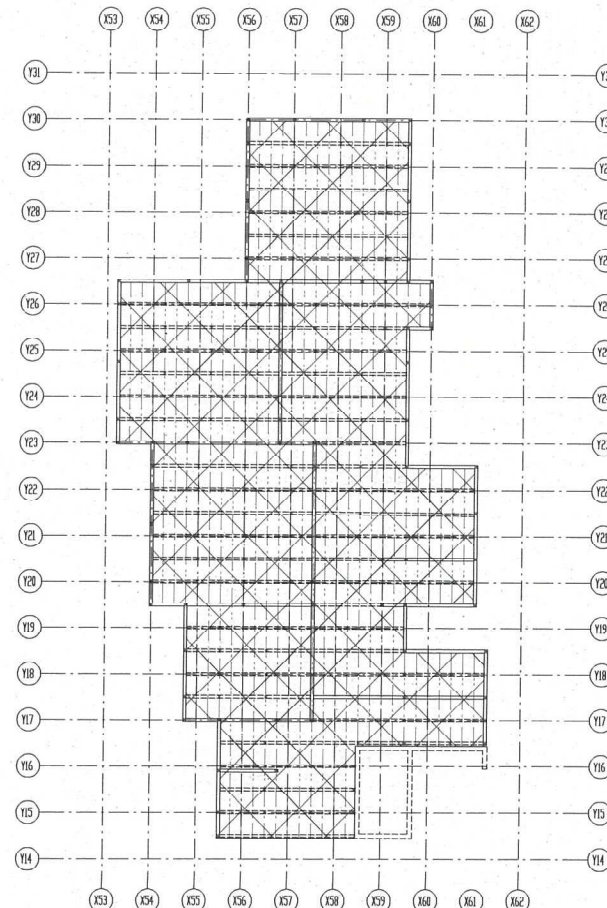
M2階柱位置

床梁: 105×105@900
列状等間隔配筋 E120-F330

床束位置

板太: 45×60@450

構造用合板 厚15



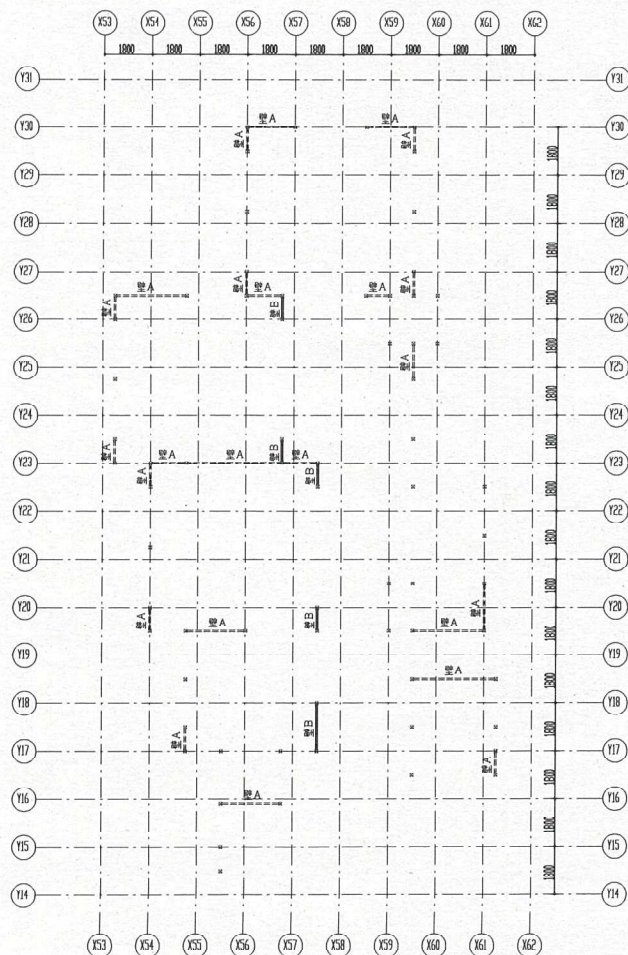
低学年棟 床伏図 M2階

凡例

注 同一等级构成集成材E120-F3750 120×120

壁A
10mm 厚
構造用合板(1種) 厚さ9mm 片面張り耐力壁 2.5倍
真壁仕様、受け材タイプ

壁B ポリカーボネイト版 両面張り耐力壁 5.0倍
真壁仕様、受け材タイプ



低学年棟 柱壁伏図

凡例

对养具等结构成床材	120×F330
生活科教室上部	120×180@900
1年生教室上部	120×270@900
2年生教室上部	120×270@900
特殊学级上部	120×210@900
他	120×180@900

—— 桁 対称異種鋼構成梁材E120-F330 120×240
梁天端=軒高さ

(+540) 桁 対称異種鋼構成素材E120-F330
梁天端 = 軒高さ+括弧内の値(マイナスの場合は軒下がり)
梁断面の記載が無い場合、120×240

火打梁 对称异等缀构成集成材E120-F330 120×240

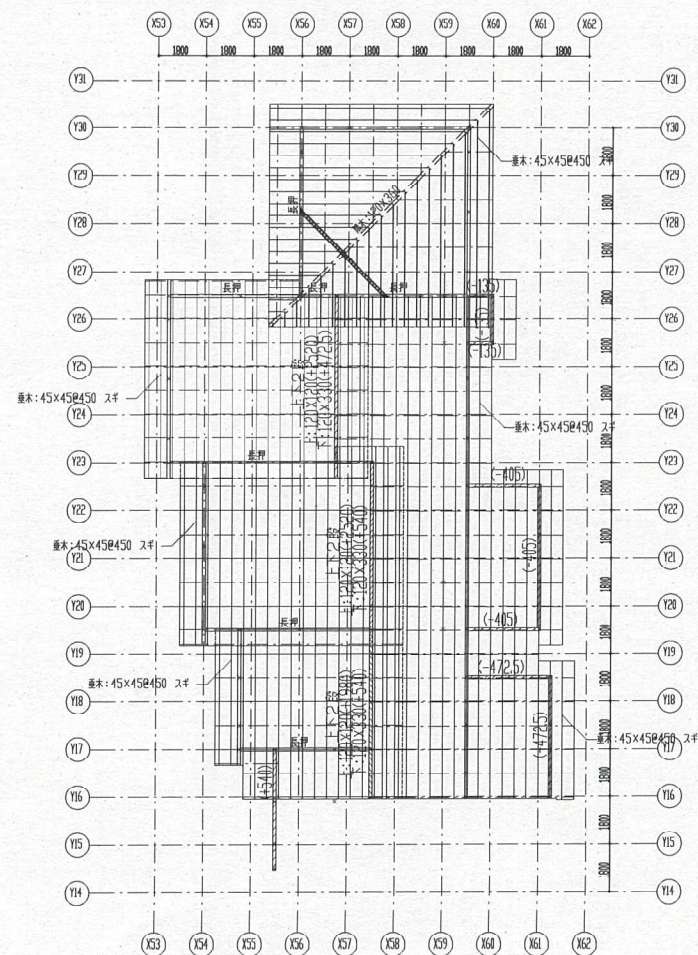
== 隔木 对称共等缀构成集成材E120-F330 120×360

長押 長押材：対称異等組集成材 □120「330 120×240
天端高さ＝軒桁天端高

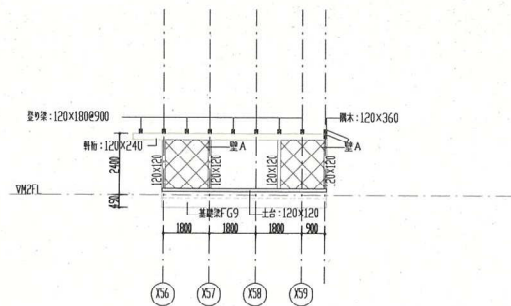
× 下階柱 同一等級構成集成材E120-F3750 120×120

• 束 120×120

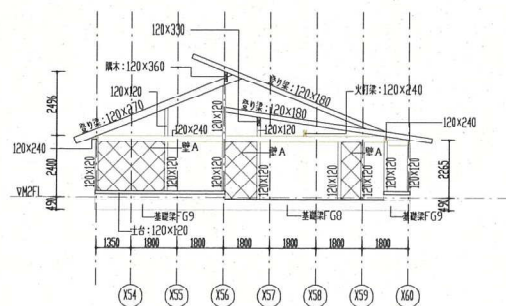
— 垂木: 45×45φ450 スギ



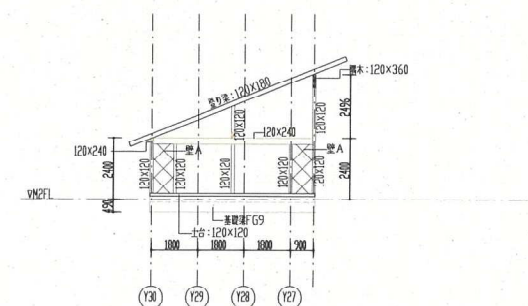
低学年棟 小屋伏図



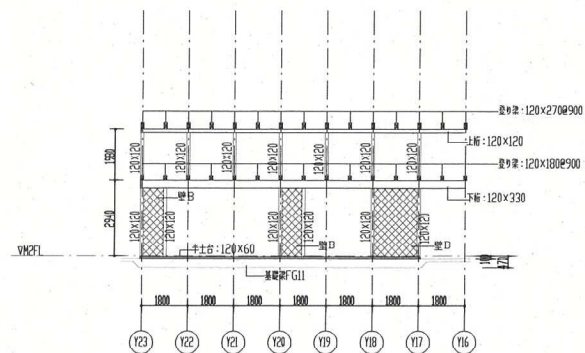
Y30 通り軸組図



Y26+900 通り軸組図

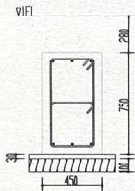
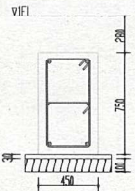
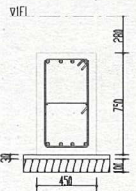
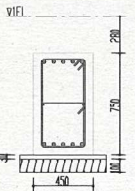
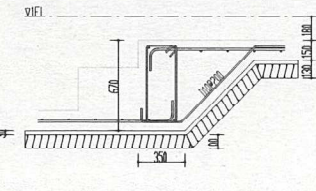
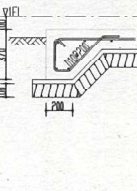
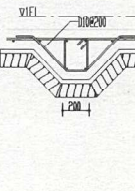
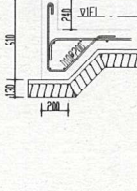


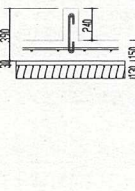
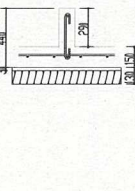
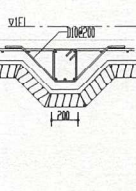
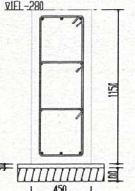
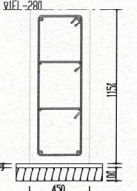
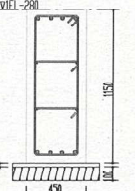
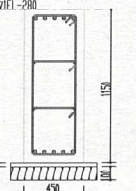
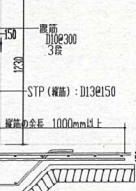
X56 通り軸組図



X56 通り軸組図

凡例				
FG8: 内部基礎梁 200x370 土留 上下Cφ 2-D13 おびら筋 D10@200 補強筋 D10@200	FG11: 内部基礎梁 200x370 土留 上下Cφ 2-D13 おびら筋 D10@200 補強筋 D10@200	柱、桁の留物は、同一等級鋼筋束成ME120-F375	壁A 構造用合板(1種) 厚さ9mm 片面張り耐力壁 2.5倍 真壁仕様、塗り材タイプ	
FG9: 外部基礎梁(FG7)+立ち上がり 断面幅 200 土留筋 1-D13 下主筋 2-D13 おびら筋 D10@200 立ち上がり幅120 天端高=FL+140			壁B ポリカーボネイト板 両面張り耐力壁 5.0倍 真壁仕様、塗り材タイプ	

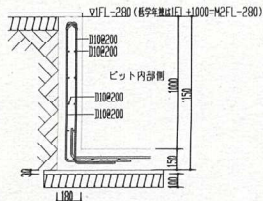
記号	FG1	FG2	FG4	FG5	FG6	FG7	FG8	FG9
部位	全て	全て	全て	全て	全て	全て	全て	一般部 つくも教室、多目的教室、音楽室
断面								
BxD	450x750	450x750	450x750	450x750	350x770	200x370	200x370	200x610
上端筋	3-D19	2-D25	4-D25	5-D25	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13
下端筋	3-D19	2-D25	4-D25	5-D25	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
STP	0-D10@150	0-D10@150	0-D10@150	0-D10@150	0-D10@200	D10@200 シングル フック付	0-D10@200	D10@200 シングル フック付
腰筋	2-D10 1段	2-D10 1段	2-D10 1段	2-D10 1段	なし	なし	なし	なし
幅止筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	なし	なし	なし	なし

記号	FG10	FG11	FG12	FG13	FG14	FG15	FG16	FG17
部位	一般部	つくも教室、多目的教室、音楽室	全て	地下ピット部	地下ピット部	地下ピット部	地下ピット部	低学年棟
断面								
BxD	120x390	120x440	200x370	450x1150	450x1150	450x1150	450x1150	300x1600
上端筋	1-D13	1-D13	2-D13	3-D19	2-D25	4-D25	5-D25	1-D13
下端筋	1-D13	1-D13	3-D16	3-D19	2-D25	4-D25	5-D25	1-D13
STP	D10@200 シングル フック付	D10@200 シングル フック付	0-D10@200	0-D10@150	0-D10@150	0-D10@150	0-D10@150	D13@150 フック付
腰筋	なし	なし	なし	4-D10 2段	4-D10 2段	4-D10 2段	4-D10 2段	3-D10 3段
幅止筋	なし	なし	なし	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	なし

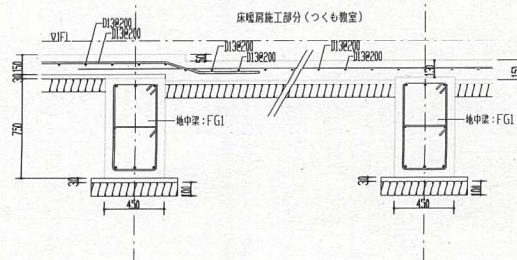
スラブ リスト

記号	厚	位置	短辺方向	長辺方向	備 考
S1	150	シングル 配筋	D13 @200	D13 @200	1 階床の接地圧のみ受ける
S2	150	シングル 配筋	D13 @150	D13 @150	図工室横の便所屋根スラブ
S3	180	上端筋 配筋	D10 @200	D10 @200	教室棟 防火区画 2 階床スラブ
S4	180	下端筋 配筋	D13 @200	D13 @200	教室棟 防火区画 屋根スラブ
S5	100	シングル 配筋	D13 @200	D13 @200	教室棟 ポンプ室 スラブ

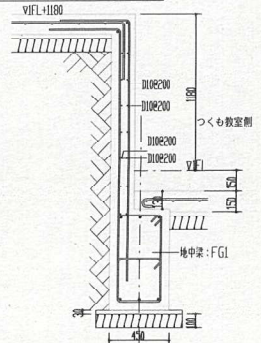
地下ピット擁壁 配筋 S=1:20



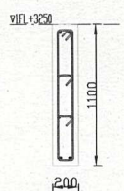
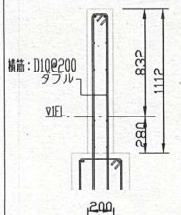
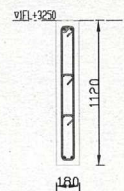
床暖房施工部分横 配筋 S=1:20



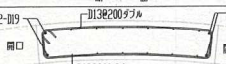
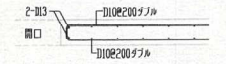
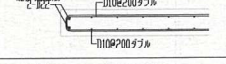
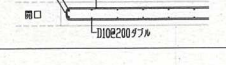
つくも教室・低学年棟地盤壁 配筋 S=1:20



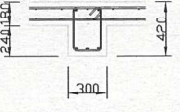
壁リスト S=1:20

記号	WG1	WG2	WG3	
部位	図工室・ギャラリー境	図工室北側	地下駐車場・階段境	
断面				
B×D	200×1100	200×1112	180×1120	
上端筋	2-D22	2-D16	2-D16	
下端筋	2-D22	地中梁上端筋	2-D16	
STP	D-D10E200	D10E200	D-D10E200	
腹筋	4-D10 2枚	備考：地中梁と一体化すること	4-D10 2枚	
幅止筋	D10E900		D10E900	

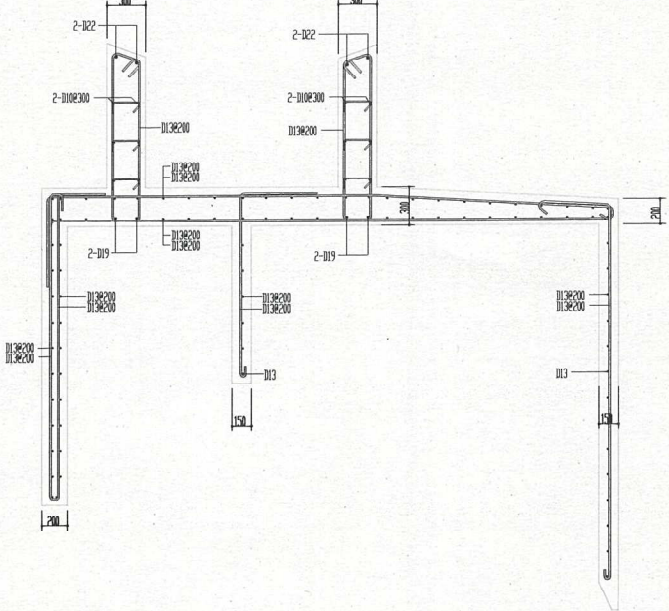
壁 リスト

記号	厚	断 面	配 筋	開口補強筋	備 考
V1	300		縦筋 D13E200ダブル 横筋 D13E200ダブル	縦 2-D19 横 2-D19 斜め 1-D19	
V2	200		縦筋 D10E200ダブル 横筋 D10E200ダブル	縦 (開口高≥1500の場合2-D16) 横 (開口高≥1500の場合2-D16) 斜め 1-D13 (開口高≥1500の場合1-D16)	
V3	200		縦筋 D10E200ダブル 横筋 D10E200ダブル	縦 - 横 - 斜め -	端部補強筋 2-D22
V4	180		縦筋 D10E200ダブル 横筋 D10E200ダブル	縦 2-D16 横 2-D16 斜め 1-D16	端部補強筋 2-D16

梁リスト S=1:20

記号	GI		
部位	防火区画		
断面			
B×D	300×420		
上端筋	2-D19		
下端筋	3-D22		
STP	D-D10E200		
腹筋	なし		
幅止筋	なし		

多目的教室・音楽室機 構 配筋 S=1:20



円筒上部 格子梁受 がりょう 配筋 S=1:20

